

2018 年度
調査報告書

スポーツボランティアに関する調査 2019



〔共同研究者〕

大東文化大学 スポーツ・健康科学部 准教授 工藤 保子
山梨学院大学 経営学部 教授 長倉 富貴

目 次

1. 調査の概要	-----	1
2. 調査結果	-----	3
1) スポーツボランティアの実施状況	-----	3
2) スポーツボランティアの活動内容	-----	5
3) スポーツ以外のボランティアの実施状況	-----	7
4) ボランティアの実施状況：スポーツとスポーツ以外のボランティアの 関係から	-----	9
5) スポーツボランティア活動の経緯	-----	13
6) ラグビーワールドカップ 2019 のボランティアへの応募状況	-----	15
7) ラグビーワールドカップ 2019 のボランティアへの応募理由	-----	17
8) 東京 2020 オリンピック・パラリンピックのボランティアへの応募状況		19
9) 東京 2020 オリンピック・パラリンピックのボランティアへの応募理由		21
10) ラグビーワールドカップと東京オリンピック・パラリンピックのボラ ンティアに応募しなかった理由	-----	23
11) ラグビーワールドカップと東京オリンピック・パラリンピックのボラ ンティアに関する報道の効果	-----	25
12) スポーツボランティアの実施希望状況	-----	27
13) 活動経験別にみるスポーツボランティアの実施希望状況	-----	29
14) スポーツボランティアの実施希望状況_他の調査との比較	-----	30
15) 今後希望するスポーツボランティアの活動内容	-----	31
16) スポーツボランティアとスポーツ実施、スポーツ観戦との関係	-----	33
17) 無自覚的スポーツボランティアの実施状況	-----	35
18) 無自覚的ボランティアを含むスポーツボランティアの実施状況	-----	38
3. まとめと考察	-----	39
4. 参考文献	-----	43

1. 調査の概要

1) 調査の目的

成人のスポーツボランティア実施状況およびスポーツ以外のボランティアの実施状況を把握するとともに、ラグビーワールドカップ 2019 と東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会のボランティアへの応募状況や応募の動機等を明らかにすることを目的とする。

2) 調査方法・対象

調査方法：調査会社の登録モニターを用いたインターネット調査

調査対象：全国の 20 代から 60 代

性別・年代別を考慮して割付け（回収数：10,000 サンプル）

3) 調査時期

2019 年 3 月

4) 調査項目

(1) スポーツボランティア実施状況

過去 1 年間およびそれ以前の実施状況

(2) スポーツボランティアの活動内容

以下の 3 分類・8 項目について、過去 1 年間およびそれ以前の実施状況と過去 1 年間の実施回数

①日常的な活動：スポーツの指導／スポーツの審判／団体・クラブの運営や世話／
スポーツ施設の管理の手伝い

②地域のスポーツイベント：スポーツの審判／大会・イベントの運営や世話

③全国・国際的スポーツイベント：スポーツの審判／大会・イベントの運営や世話

(3) スポーツ以外のボランティアの実施状況

以下の 11 分類について、過去 1 年間およびそれ以前の実施状況

①健康や医療サービスに関係した活動（献血、入院患者の話し相手、安全な食品を広めることなど）

②高齢者を対象とした活動（高齢者の日常生活の手助けなど）

③障害者を対象とした活動（手話、点訳、朗読、障害者の社会参加の協力など）

④子どもを対象とした活動（子供会の世話、子育て支援ボランティア、学校行事の手伝いなど）

⑤文化・芸術・学術に関係した活動

（日本古来の文化を広めること、美術館ガイド、講演会・シンポジウム等の開催など）

⑥まちづくりのための活動（道路や公園等の清掃、花いっぱい運動、まちおこしなど）

⑦安全な生活のための活動（防災活動、防犯活動、交通安全運動など）

⑧自然や環境を守るための活動

（野鳥の観察と保護、森林や緑を守る活動、リサイクル運動、ゴミを減らす活動など）

⑨災害に関係した活動（災害を受けた人に食べものや着るものを送ること、炊き出しなど）

⑩国際協力に関係した活動（海外支援協力、難民支援、日本にいる外国人への支援活動など）

⑪神社、寺院、宗教に関する活動（法要や行事の手伝い、布教活動など）

（４）スポーツボランティア活動の経緯

（５）ラグビーワールドカップ 2019 のボランティアへの応募状況

応募状況、応募理由、応募を検討したが応募しなかった理由など

（６）東京 2020 オリンピック・パラリンピックのボランティアへの応募状況

応募状況、応募理由、応募を検討したが応募しなかった理由など

（７）ラグビーワールドカップと東京オリンピック・パラリンピックのボランティアに関する報道の効果

（８）スポーツボランティアの実施希望状況

今後のスポーツボランティアの実施希望状況と実施を希望する活動内容

（９）スポーツ実施状況とスポーツ観戦状況

過去 1 年間の定期的なスポーツの実施状況および観戦状況とその種目

5) 調査の実施体制

以下の 3 者による共同研究として実施した。

工藤 保子（大東文化大学 スポーツ・健康科学部 准教授）

長倉 富貴（山梨学院大学 経営学部 教授）

澁谷 茂樹（笹川スポーツ財団 スポーツ政策研究所 シニア政策アナリスト）

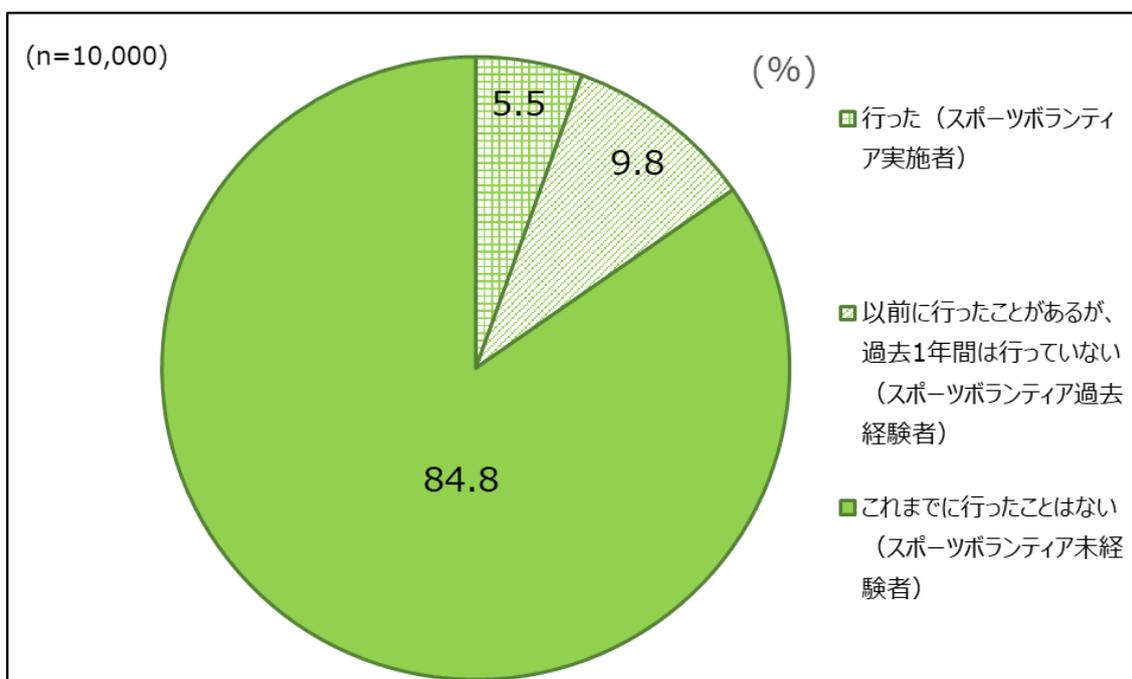
2. 調査結果

1) スポーツボランティアの実施状況

過去1年間のスポーツボランティア実施状況についてたずねた。過去1年間にスポーツボランティア活動を「行った」者(スポーツボランティア実施者)は5.5%、「以前に行ったことがあるが、過去1年間には行っていない」者(スポーツボランティア過去経験者)は9.8%、「これまでに行ったことはない」者(スポーツボランティア未経験者)は84.8%であった(図表1)。

図表1 過去1年間のスポーツボランティア実施状況

あなたは、過去1年間に何らかのスポーツにかかわるボランティア活動を行いましたか。(1つ選択)



性別にみると、男性ではスポーツボランティア実施者が7.6%、スポーツボランティア過去経験者が11.6%であるのに対し、女性では実施者3.3%、過去経験者7.9%となっており、スポーツボランティアの実施者、過去経験者は男性が女性より多い（図表2）。性・年代別にみると、スポーツボランティア実施者は、男性で20代、30代、女性で20代が多く、スポーツボランティア過去経験者は、男性、女性ともに20代、60代が多くなっている。

図表2 過去1年間のスポーツボランティア実施状況（性・年代別）

あなたは、過去1年間に何らかのスポーツにかかわるボランティア活動を行いましたか。（1つ選択）

	(%)		
	実施者 (スポーツボランティア)	過去1年間に 行ったことがある (ボランティア)	過去1年間に 行ったことが ない(ボランティア 経験者)
全体 (n=10,000)	5.5	9.8	84.8
男性全体 (n=5,020)	7.6	11.6	80.8
男性20代 (n=796)	12.3	14.1	73.6
男性30代 (n=966)	9.3	8.8	81.9
男性40代 (n=1,189)	6.0	9.3	84.8
男性50代 (n=956)	5.6	11.9	82.4
男性60代 (n=1,113)	6.4	14.5	79.2
女性全体 (n=4,980)	3.3	7.9	88.9
女性20代 (n=756)	4.9	9.7	85.4
女性30代 (n=937)	2.7	7.0	90.3
女性40代 (n=1,162)	2.9	7.2	89.8
女性50代 (n=956)	2.8	6.2	91.0
女性60代 (n=1,169)	3.3	9.5	87.2

2) スポーツボランティアの活動内容

過去1年間にスポーツボランティア活動を「行った」者（スポーツボランティア実施者）と、「以前に行ったことがあるが、過去1年間には行っていない」者（スポーツボランティア過去経験者）に、具体的な活動内容をたずねた。

スポーツボランティア実施者とスポーツボランティア過去経験者がこれまでに行ったことがある活動で最も多いのは、「【地域のスポーツイベント】大会・イベントの運営や世話」の47.7%で、以下、「【日常的な活動】団体・クラブの運営や世話」（32.9%）、「【日常的な活動】スポーツの指導」（29.3%）が続く（図表3）。

スポーツボランティア実施者が過去1年間に行った活動では、「【地域のスポーツイベント】大会・イベントの運営や世話」が40.8%で最も多く、以下、「【日常的な活動】スポーツの指導」（33.2%）、「【日常的な活動】団体・クラブの運営や世話」（26.0%）の順となっている。

過去1年間のスポーツボランティア活動の平均実施回数をみると、最も多いのは、「【日常的な活動】スポーツの指導」の17.0回で、以下、「【日常的な活動】団体・クラブの運営や世話」（11.0回）、「【日常的な活動】スポーツの審判」（7.4回）が続く。実施者が最も多かった「【地域のスポーツイベント】大会・イベントの運営や世話」は3.0回、「【全国・国際的スポーツイベント】大会・イベントの運営や世話」は2.3回であり、スポーツイベントのボランティアは、多くの人にとって、年1～数回の限られた機会であることがわかる。

図表3 スポーツボランティア実施者および過去経験者の活動内容別実施状況

これまでに/過去1年間にあなたが行ったことのあるスポーツボランティア活動は何ですか。（それぞれ複数選択可）

ボランティア活動の内容	スポーツボランティア過去経験者+実施者	スポーツボランティア実施者	
	これまでに 行ったことがある活動	過去1年間に 行った活動	平均実施回数
	n=1,521	n=546	
【日常的な活動】スポーツの指導	29.3%	33.2%	17.0回
【日常的な活動】スポーツの審判	24.7%	18.7%	7.4回
【日常的な活動】団体・クラブの運営や世話	32.9%	26.0%	11.0回
【日常的な活動】スポーツ施設の管理の手伝い	25.2%	19.8%	6.6回
【地域のスポーツイベント】スポーツの審判	18.1%	13.7%	4.9回
【地域のスポーツイベント】大会・イベントの運営や世話	47.7%	40.8%	3.0回
【全国・国際的スポーツイベント】スポーツの審判	5.3%	2.7%	4.5回
【全国・国際的スポーツイベント】大会・イベントの運営や世話	16.2%	13.4%	2.3回
その他	2.7%	2.6%	4.1回

スポーツボランティア実施者とスポーツボランティア過去経験者がこれまでに行ったことがある活動を性別にみると、「【日常的な活動】スポーツの指導」、「【日常的な活動】スポーツの審判」、「【地域のスポーツイベント】スポーツの審判」において、男性の割合が女性の2倍以上となっている（図表4）。一方、「【地域のスポーツイベント】大会・イベントの運営や世話」では、男性45.0%に対して女性52.3%と女性の割合が大きく、活動内容により実施経験に男女差がみられる。

性・年代別にみると、男性では、「【日常的な活動】スポーツの指導」は20代が多く、「【日常的な活動】団体・クラブの運営や世話」と「【地域のスポーツイベント】大会・イベントの運営や世話」は、40代～60代が多かった。また、女性では、「【地域のスポーツイベント】大会・イベントの運営や世話」において、50代、60代の活動経験者が多くなっている。

**図表4 スポーツボランティア実施者および経験者の活動内容別実施状況
（これまでに行ったことがある活動：性・年代別）**

これまでに／過去1年間にあなたが行ったことのあるスポーツボランティア活動は何ですか。（それぞれ複数選択可）

	ス ポ ー ツ の 指 導 （ 日 常 的 な 活 動 ）	ス ポ ー ツ の 審 判 （ 日 常 的 な 活 動 ）	世 話 （ 団 体 ・ ク ラ ブ の 運 営 や ）	手 伝 い （ 日 常 的 な 活 動 ）	ス ポ ー ツ の 指 導 （ 日 常 的 な 活 動 ）	ス ポ ー ツ の 審 判 （ 地 域 の ス ポ ー ツ イ ベ ン ト ）	の 運 営 や 世 話 （ 地 域 の ス ポ ー ツ イ ベ ン ト ）	の 審 判 （ 全 国 ・ 国 際 的 な ス ポ ー ツ イ ベ ン ト ）	ベ ン チ ン の 運 営 や 世 話 （ 全 国 ・ 国 際 的 な ス ポ ー ツ イ ベ ン ト ）	そ の 他 （ ）
全体（n=1,521）	29.3	24.7	32.9	25.2	18.1	47.7	5.3	16.2	2.7	
男性全体（n=966）	39.0	31.0	34.1	26.4	22.8	45.0	5.9	15.5	2.0	
男性20代（n=210）	44.3	32.9	29.0	24.3	21.4	34.3	8.1	15.2	2.9	
男性30代（n=175）	34.3	26.3	29.1	25.7	18.3	41.7	5.1	13.1	1.1	
男性40代（n=181）	37.6	29.3	37.0	30.4	24.3	44.2	7.2	18.8	1.7	
男性50代（n=168）	38.7	37.5	35.1	24.4	25.0	48.8	4.8	13.1	3.0	
男性60代（n=232）	39.2	29.3	39.2	27.2	24.6	55.2	4.3	16.8	1.3	
女性全体（n=555）	12.4	13.7	31.0	23.2	10.1	52.3	4.1	17.5	4.0	
女性20代（n=110）	16.4	20.9	15.5	26.4	14.5	51.8	6.4	16.4	5.5	
女性30代（n=91）	14.3	16.5	33.0	31.9	12.1	35.2	5.5	19.8	3.3	
女性40代（n=118）	10.2	11.0	32.2	19.5	5.1	53.4	2.5	16.1	5.9	
女性50代（n=86）	10.5	14.0	44.2	26.7	10.5	57.0	2.3	17.4	2.3	
女性60代（n=150）	11.3	8.7	32.7	16.7	9.3	59.3	4.0	18.0	2.7	

3) スポーツ以外のボランティアの実施状況

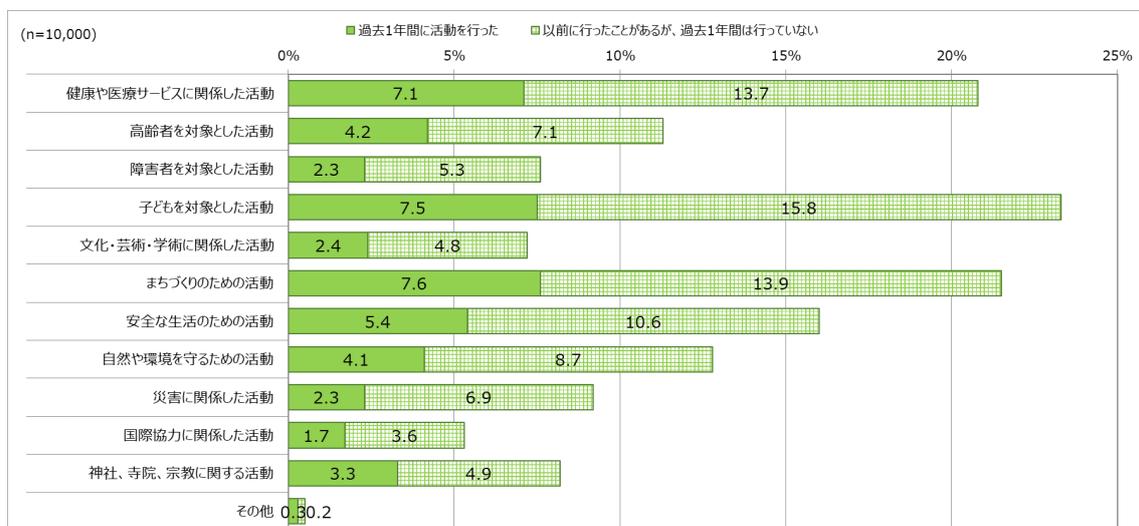
過去1年間のスポーツ以外のボランティア活動の有無について、活動内容別にたずねた。活動分類は、総務省「社会生活基本調査」の調査票の10項目をもとに、その一つである「スポーツ・文化・芸術・学術に関係した活動」からスポーツを除き、「文化・芸術・学術に関係した活動」に変更したほか、「神社、寺院、宗教に関する活動」を加えた11項目とした。

過去1年間に行った活動で最も多いのは、「まちづくりのための活動」の7.6%で、以下、「子どもを対象とした活動」(7.5%)、「健康や医療サービスに関係した活動」(7.1%)、「安全な生活のための活動」(5.4%)、「高齢者を対象とした活動」(4.2%)などの順となっている(図表5)。

スポーツ以外のボランティア活動を、「以前に行ったことがあるが、過去1年間には行っていない」と回答したボランティア過去経験者についてみると、最も多いのは「子どもを対象とした活動」(15.8%)で、以下、「まちづくりのための活動」(13.9%)、「健康や医療サービスに関係した活動」(13.7%)などが続く。

図表5 スポーツ以外のボランティア活動の実施状況

あなたは、過去1年間に、以下に示すスポーツ以外のボランティア活動を行いましたか。(それぞれ1つずつ選択)



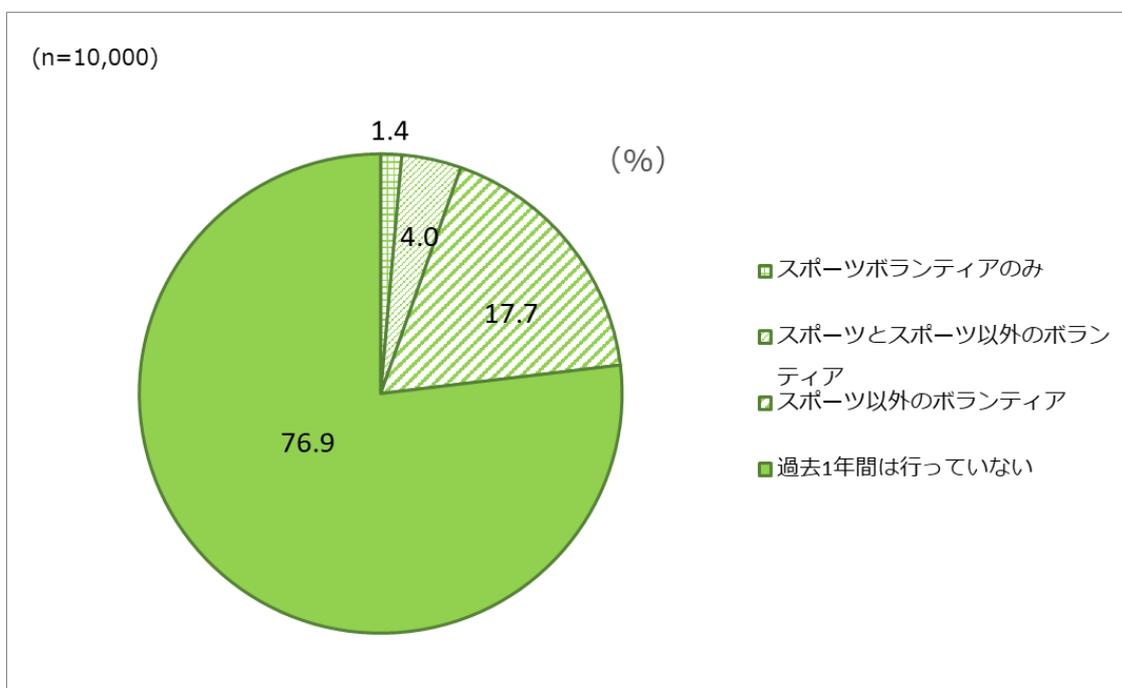
4) ボランティアの実施状況：スポーツとスポーツ以外のボランティアの関係から

ボランティアの実施状況について、スポーツボランティア実施者、スポーツ以外のボランティア実施者とそれぞれの重複実施者の割合をみた。

(1) 過去1年間のボランティア実施状況

過去1年間のボランティア実施状況についてみると、「スポーツ以外のボランティアを実施」が17.7%、「スポーツボランティアとスポーツ以外のボランティアの両方を実施」が4.0%、「スポーツボランティアのみ実施」1.4%であった（図表7）。スポーツボランティア実施者の多くが、スポーツ以外のボランティアと「掛け持ち」して活動していることがわかる。

**図表7 過去1年間のボランティア実施状況：
スポーツボランティアとスポーツ以外のボランティア**



過去1年間のボランティア実施状況を性別にみると、「スポーツボランティアのみ実施」と「スポーツボランティアとスポーツ以外のボランティアの両方を実施」は男性の割合が大きく、「スポーツ以外のボランティアを実施」は女性の割合が大きい（図表8）。性・年代別にみると、男性、女性ともに、「スポーツボランティアのみ実施」と「スポーツボランティアとスポーツ以外のボランティアの両方を実施」は20代が多く、「スポーツ以外のボランティアを実施」は60代が多くなっている。

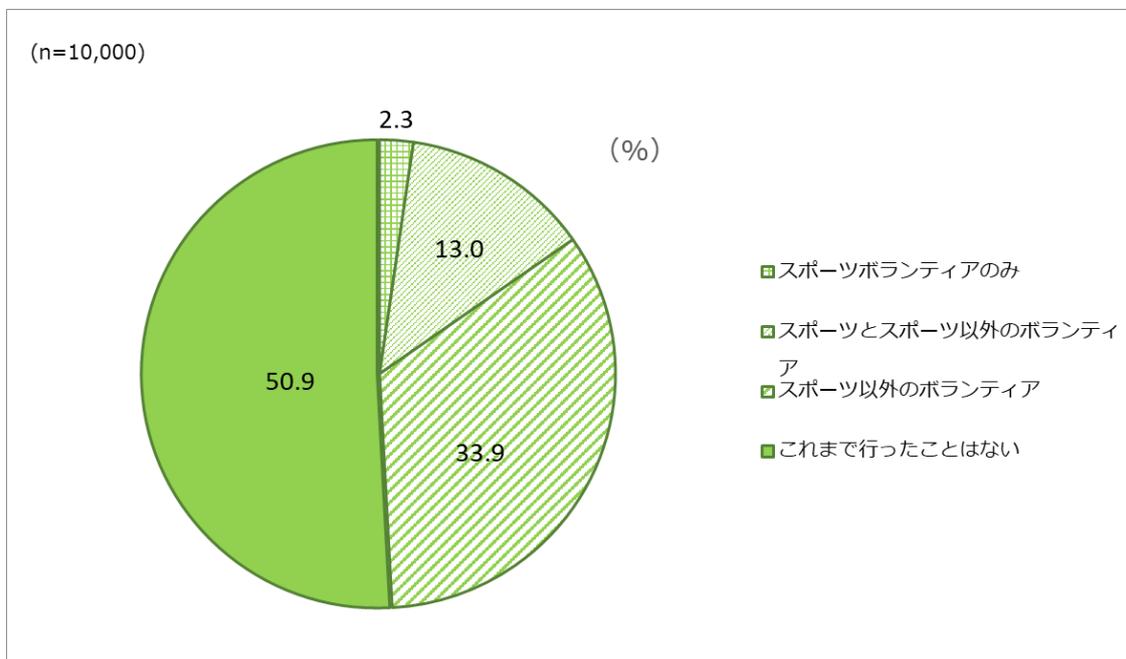
図表8 過去1年間のボランティア実施状況：
スポーツボランティアとスポーツ以外のボランティア（性・年代別）
 (%)

	テ ス ポ ー ツ ボ ラ ン テ ィ ア の み ボ ラ ン	ラ ポ ー ツ ボ ラ ン テ ィ ア と ス ポ ー ツ 以 外 の ボ ラ ン テ ィ ア の 両 方 を 実 施	ボ ス ポ ー ツ ボ ラ ン テ ィ ア と ス ポ ー ツ 以 外 の ボ ラ ン テ ィ ア の 両 方 を 実 施	行 過 つ 去 て 1 年 間 は
全体 (n=10,000)	1.4	4.0	17.7	76.9
男性全体 (n=5,020)	2.0	5.7	16.8	75.5
男性20代 (n=796)	2.6	9.7	13.2	74.5
男性30代 (n=966)	2.2	7.1	14.7	76.0
男性40代 (n=1,189)	1.6	4.4	16.7	77.3
男性50代 (n=956)	1.6	4.1	18.4	75.9
男性60代 (n=1,113)	2.2	4.2	19.9	73.7
女性全体 (n=4,980)	0.8	2.4	18.6	78.2
女性20代 (n=756)	1.5	3.4	14.0	81.1
女性30代 (n=937)	0.6	2.0	16.0	81.3
女性40代 (n=1,162)	0.9	2.1	20.7	76.4
女性50代 (n=956)	0.7	2.1	17.8	79.4
女性60代 (n=1,169)	0.7	2.7	22.2	74.5

(2) これまでのボランティア実施経験

過去1年間のボランティアに限定せずに、過去1年の実施を含めたこれまでのボランティア実施経験についてみると、「スポーツ以外のボランティアを実施」が33.9%、「スポーツボランティアとスポーツ以外のボランティアの両方を実施」が13.0%、「スポーツボランティアのみ実施」2.3%であった(図表9)。スポーツボランティア経験者の8割以上にスポーツ以外のボランティアの経験がある。一方で、これまでにボランティアをまったく実施したことがない未経験者の割合は50.9%となっており、ほぼ半数の成人にスポーツを含む何らかのボランティア経験があることがわかる。

**図表9 これまでのボランティア実施経験：
スポーツボランティアとスポーツ以外のボランティア**



過去1年の実施を含めたこれまでのボランティア実施経験を性別にみると、「スポーツボランティアのみ実施」と「スポーツボランティアとスポーツ以外のボランティアの両方を実施」は男性の割合が大きく、「スポーツ以外のボランティアを実施」は女性の割合が大きい（図表10）。特に、「スポーツ以外のボランティアを実施」は男性28.5%に対し、女性39.3%と約11ポイント女性の割合が大きくなっている。性・年代別にみると、男性では、「スポーツボランティアのみ実施」と「スポーツボランティアとスポーツ以外のボランティアの両方を実施」は20代が多く、女性では、「スポーツボランティアのみ実施」は20代が多く、「スポーツボランティアとスポーツ以外のボランティアの両方を実施」は20代と60代が多い。「スポーツ以外のボランティアを実施」は、男女ともに年代が上がるにつれて多くなっている。

**図表10 これまでのボランティア実施経験：
スポーツボランティアとスポーツ以外のボランティア（性・年代別）**

(%)

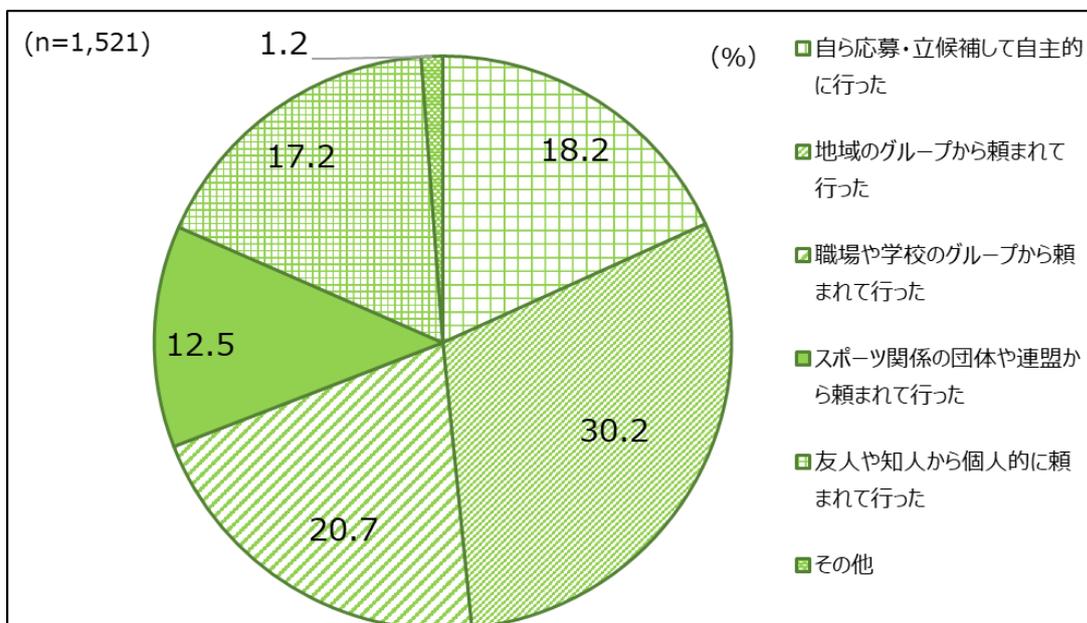
	ス ポ ー ツ ボ ラ ン テ ィ ア の み 実 施	ス ポ ー ツ ボ ラ ン テ ィ ア と ス ポ ー ツ 以 外 の ボ ラ ン テ ィ ア の 両 方 を 実 施	ス ポ ー ツ 以 外 の ボ ラ ン テ ィ ア を 実 施	こ こ と れ は ま な で い っ た
全体 (n=10,000)	2.3	13.0	33.9	50.9
男性全体 (n=5,020)	2.9	16.3	28.5	52.3
男性20代 (n=796)	4.8	21.6	22.4	51.3
男性30代 (n=966)	2.9	15.2	22.3	59.6
男性40代 (n=1,189)	2.0	13.2	29.3	55.5
男性50代 (n=956)	2.5	15.1	30.5	51.9
男性60代 (n=1,113)	3.0	17.9	35.7	43.5
女性全体 (n=4,980)	1.6	9.6	39.3	49.6
女性20代 (n=756)	2.8	11.8	31.2	54.2
女性30代 (n=937)	1.5	8.2	33.8	56.5
女性40代 (n=1,162)	1.9	8.3	36.4	53.4
女性50代 (n=956)	0.6	8.4	45.4	45.6
女性60代 (n=1,169)	1.3	11.5	46.7	40.5

5) スポーツボランティア活動の経緯

スポーツボランティア実施者と過去経験者に対し、スポーツボランティア活動の経緯をたずねた。最も多かったのは「地域のグループから頼まれて行った」の30.2%で、以下、「職場や学校のグループから頼まれて行った」(20.7%)、「自ら応募・立候補して自主的に行った」(18.2%)などの順となっている(図表11)。スポーツボランティア実施者と過去経験者の約8割が、何らかの組織・団体、グループや友人・知人からの依頼を受けてスポーツボランティア活動を行っていることがわかった。

図表 11 スポーツボランティア活動の経緯

あなたはスポーツボランティア活動を主にどのようないきさつ(経緯)で行いましたか。(1つ選択)



スポーツボランティア活動の経緯を性別にみると、「地域のグループから頼まれて行った」は男性が多く、「職場や学校のグループから頼まれて行った」と「友人や知人から個人的に頼まれて行った」では女性が多くなっている（図表 12）。性・年代別にみると、「自ら応募・立候補して自主的に行った」は 20 代と 30 代の男性が多く、「地域のグループから頼まれて行った」は 60 代の男性と女性、「職場や学校のグループから頼まれて行った」は 20 代の男性と 20 代、30 代、40 代の女性がそれぞれ多い。

図表 12 スポーツボランティア活動の経緯（性・年代別）

あなたはスポーツボランティア活動を主にどのようないきさつ（経緯）で行いましたか。（1つ選択）

(%)

	自主的に応募・立候補して自	地域のグループから頼ま	職場や学校のグループか	スポーツ関係の団体や連	友人や知人から個人的に	その他
全体 (n=1,521)	18.2	30.2	20.7	12.5	17.2	1.2
男性全体 (n=966)	18.9	33.5	18.6	12.9	15.3	0.6
男性20代 (n=210)	23.8	25.2	26.2	7.1	16.7	1.0
男性30代 (n=175)	27.4	32.0	16.0	10.3	14.3	0.0
男性40代 (n=181)	21.0	29.8	17.1	17.1	14.9	0.0
男性50代 (n=168)	16.1	33.9	19.6	15.5	13.1	1.8
男性60代 (n=232)	8.6	44.8	14.2	15.1	16.8	0.4
女性全体 (n=555)	16.9	24.5	24.3	11.7	20.4	2.2
女性20代 (n=110)	17.3	14.5	35.5	11.8	20.9	0.0
女性30代 (n=91)	14.3	17.6	27.5	15.4	24.2	1.1
女性40代 (n=118)	20.3	18.6	26.3	11.9	20.3	2.5
女性50代 (n=86)	17.4	29.1	19.8	9.3	20.9	3.5
女性60代 (n=150)	15.3	38.0	15.3	10.7	17.3	3.3

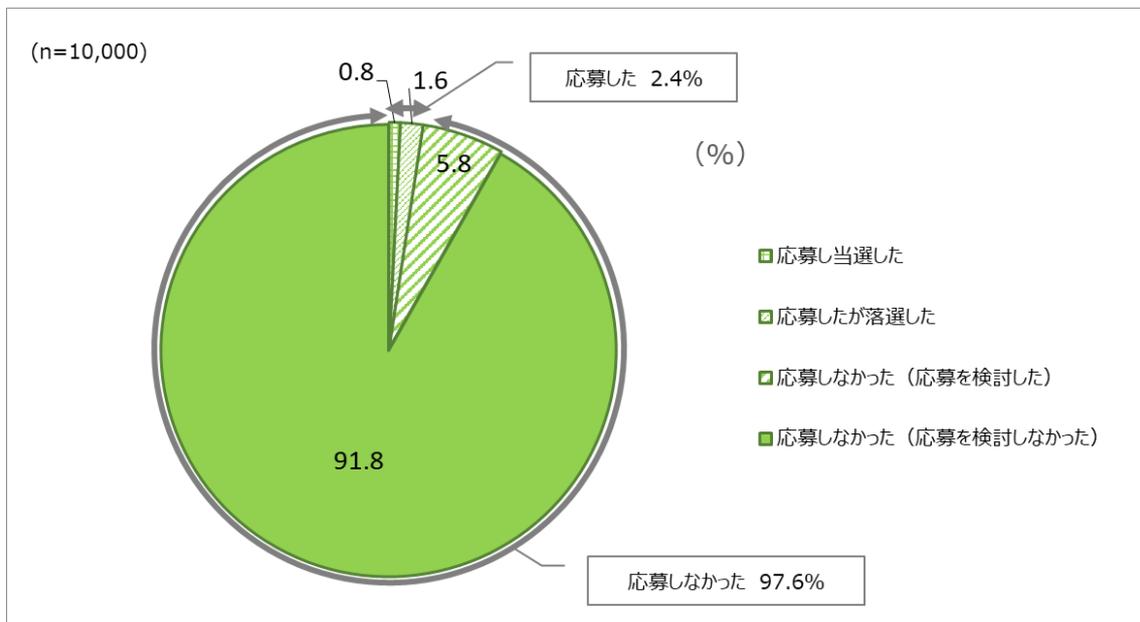
6) ラグビーワールドカップ 2019 のボランティアへの応募状況

2019年9～11月に開催されるラグビーワールドカップのボランティアへの応募状況についてたずねた。ラグビーワールドカップでは、「1万人以上」の募集に対し、3万8,000人の応募があり、このうち1万3,000人がボランティアとして採用されており、多くの落選者が出たことから、当落を含めた応募状況を確認した。

ラグビーワールドカップのボランティアに「応募し当選した」のは0.8%、「応募したが落選した」は1.6%で、全体の2.4%がラグビーワールドカップのボランティアに応募していた(図表13)。「応募しなかった」97.6%のうち、5.8%は応募を検討したが、結果として応募しなかったと回答しており、応募者の倍以上の「応募予備軍」が存在したことがわかった。

図表 13 ラグビーワールドカップ 2019 のボランティアへの応募状況

あなたは、2019年9～11月に開催されるラグビーワールドカップのボランティアに応募しましたか。(1つ選択)



ラグビーワールドカップのボランティアへの応募状況について性別にみると、当選、落選を合わせた「応募した」の割合は男性 3.6%に対し女性 1.2%と、男性が女性の 3 倍となっている（図表 14）。また、「応募しなかった（応募を検討した）」も、男性が女性を上回っている（男性 7.0%、女性 4.5%）。性・年代別にみると、「応募し当選した」「応募したが落選した」「応募しなかった（応募を検討した）」は、男性は 20 代、30 代の順に多く、女性では 20 代が最も多い。ラグビーワールドカップのボランティア応募者は若い年代ほど多いことがわかる。

図表 14 ラグビーワールドカップ 2019 のボランティアへの応募状況（性・年代別）

あなたは、2019 年 9～11 月に開催されるラグビーワールドカップのボランティアに応募しましたか。（1つ選択）

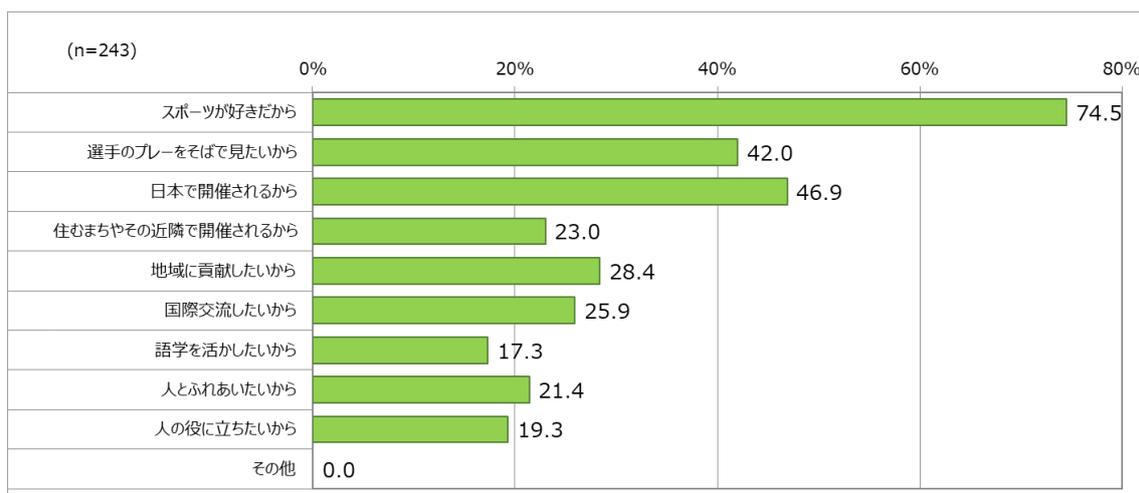
	応募した計			応募しなかった計		
	当選した	落選した	検討しなかった	検討しなかった	検討しなかった	
全体 (n=10,000)	2.4	0.8	1.6	97.6	5.8	91.8
男性全体 (n=5,020)	3.6	1.3	2.4	96.4	7.0	89.4
男性20代 (n=796)	8.7	3.5	5.2	91.3	9.0	82.3
男性30代 (n=966)	4.2	1.8	2.5	95.8	7.3	88.4
男性40代 (n=1,189)	2.6	0.7	1.9	97.4	6.6	90.7
男性50代 (n=956)	2.1	0.4	1.7	97.9	6.0	91.9
男性60代 (n=1,113)	1.8	0.5	1.3	98.2	6.4	91.8
女性全体 (n=4,980)	1.2	0.4	0.9	98.8	4.5	94.2
女性20代 (n=756)	2.5	0.9	1.6	97.5	6.6	90.9
女性30代 (n=937)	1.5	0.4	1.1	98.5	4.2	94.3
女性40代 (n=1,162)	0.9	0.4	0.5	99.1	4.2	94.8
女性50代 (n=956)	1.0	0.1	0.9	99.0	4.2	94.8
女性60代 (n=1,169)	0.7	0.1	0.6	99.3	4.1	95.2

7) ラグビーワールドカップ 2019 のボランティアへの応募理由

ラグビーワールドカップのボランティアへの応募者（落選者を含む）に対し、応募の理由をたずねた。最も多かったのは「スポーツが好きだから」の74.5%で、以下、「日本で開催されるから」（46.9%）、「選手のプレーをそばで見たいから」（42.0%）、「地域に貢献したいから」（28.4%）などの順となっている（図表 15）。ボランティア活動実施希望者に対し、その理由を単一回答でたずねた 2018 年の調査では、最も多かったのは「日本で開催されるから」（25.8%）で、以下、「スポーツが好きだから」（25.2%）、「選手のプレーをそばで見たいから」（18.1%）の順であり、今回の調査は「スポーツが好きだから」の割合が相対的に高くなっている。

図表 15 ラグビーワールドカップ 2019 のボランティアへの応募理由

あなたがラグビーワールドカップのボランティアに応募した理由を選択してください。（複数選択可）



ラグビーワールドカップのボランティアへの応募理由を性別にみると、「スポーツが好きだから」は男性の割合が大きいですが、その他のほとんどの理由では、女性の割合が男性を上回っている（図表 16）。特に、「地域に貢献したいから」「選手のプレーをそばで見たいから」「人とふれあいたいから」「語学を活かしたいから」では、女性の割合が男性に比べて大きく、ボランティアへの応募の理由は、男女により異なる傾向があることがわかった。

図表 16 ラグビーワールドカップ 2019 のボランティアへの応募理由（性・年代別）

あなたがラグビーワールドカップのボランティアに応募した理由を選択してください。（複数選択可）

	ス ポ ー ツ が 好 き だ か ら	見 た い か ら 選 手 の プ レ ー を そ ば で	日 本 で 開 催 さ れ る か ら	開 催 さ れ る か ら 近 隣 で	住 ま れ る か ら	地 域 に 貢 献 し た い か ら	国 際 交 流 し た い か ら	語 学 を 活 か し た い か ら	人 と ふ れ あ い た い か ら	人 の 役 に 立 ち た い か ら	そ の 他
全体 (n=243)	74.5	42.0	46.9	23.0	28.4	25.9	17.3	21.4	19.3	0.0	
男性全体 (n=181)	79.0	40.3	47.0	22.1	26.0	25.4	16.0	19.3	18.2	0.0	
男性20代 (n=69)	85.5	43.5	36.2	21.7	20.3	10.1	11.6	13.0	10.1	0.0	
男性30代 (n=41)	70.7	39.0	53.7	31.7	22.0	29.3	17.1	19.5	19.5	0.0	
男性40代 (n=31)	80.6	25.8	48.4	22.6	29.0	35.5	12.9	35.5	19.4	0.0	
男性50代 (n=20)	75.0	45.0	55.0	25.0	30.0	35.0	10.0	10.0	20.0	0.0	
男性60代 (n=20)	75.0	50.0	60.0	0.0	45.0	45.0	40.0	25.0	40.0	0.0	
女性全体 (n=62)	61.3	46.8	46.8	25.8	35.5	27.4	21.0	27.4	22.6	0.0	
女性20代 (n=19)	52.6	42.1	36.8	15.8	21.1	10.5	5.3	26.3	21.1	0.0	
女性30代 (n=14)	57.1	35.7	35.7	21.4	50.0	35.7	21.4	21.4	7.1	0.0	
女性40代 (n=11)	63.6	45.5	54.5	9.1	27.3	45.5	36.4	27.3	36.4	0.0	
女性50代 (n=10)	80.0	60.0	70.0	40.0	40.0	30.0	30.0	20.0	30.0	0.0	
女性60代 (n=8)	62.5	62.5	50.0	62.5	50.0	25.0	25.0	50.0	25.0	0.0	

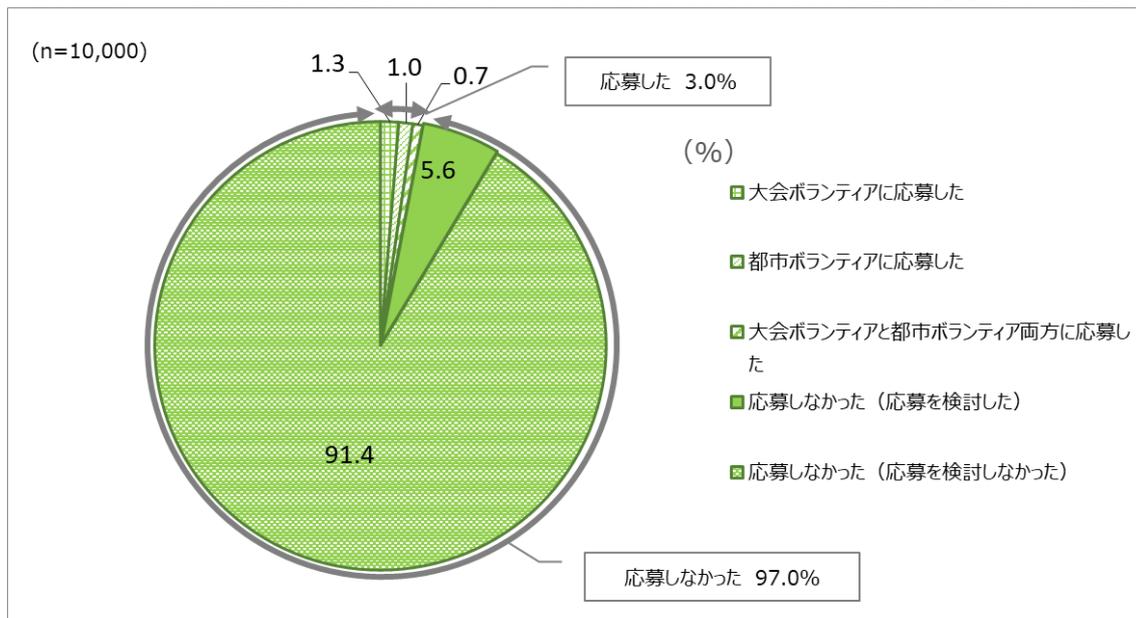
8) 東京 2020 オリンピック・パラリンピックのボランティアへの応募状況

2020年に開催される東京オリンピック・パラリンピックのボランティアへの応募状況についてたずねた。オリンピック・パラリンピックのボランティアには、大会組織委員会が募集する大会ボランティア（募集人数8万人）と、競技会場がある自治体が募集する都市ボランティア（東京の募集人数3万人）があるため、それぞれの応募状況を確認した。

オリンピック・パラリンピックの「大会ボランティアに応募した」のは1.3%、「都市ボランティアに応募した」は1.0%、「大会ボランティアと都市ボランティア両方に応募した」は0.7%で、全体の3.0%が東京オリンピック・パラリンピックのボランティアに応募していた（図表17）。「応募しなかった」97.0%のうち、5.6%は応募を検討したが、結果として応募しなかったと回答しており、応募者の2倍弱の「応募予備軍」が存在したことがわかった。

図表 17 東京 2020 オリンピック・パラリンピックのボランティアへの応募状況

あなたは、2020年に開催される東京オリンピック・パラリンピックのボランティアに応募しましたか。（1つ選択）



東京オリンピック・パラリンピックのボランティアへの応募状況について性別にみると、大会ボランティア、都市ボランティアを合わせた「応募した」の割合は男性 4.3%に対し女性 1.7%と、男性が女性の 2 倍以上となっている（図表 18）。性・年代別にみると、「応募した」は男性 20 代 9.8%、男性 30 代 5.7%、男性 40 代 3.6%、女性 20 代 3.0%、女性 30 代 2.2%、女性 40 代 1.2%となっており、男女ともに 20 代、30 代の順に多く、東京オリンピック・パラリンピックのボランティアの応募者は若い年代ほど多いことがわかる。

**図表 18 東京 2020 オリンピック・パラリンピックのボランティアへの応募状況
(性・年代別)**

あなたは、2020 年に開催される東京オリンピック・パラリンピックのボランティアに応募しましたか。(1つ選択)

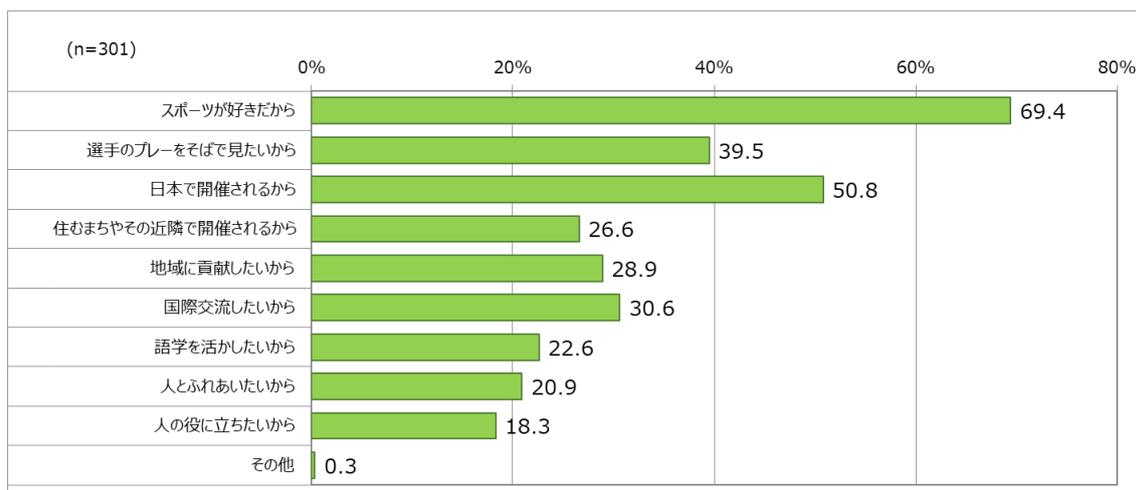
	応募した計				応募しなかった計			%
	に大会 応募 した テ ィ ア	に都市 応募 した テ ィ ア	アと大 両都会 方市ボ にボラ 応募 した テ ィ ア		検 討 し な か っ た	検 討 し な か っ た	検 討 し な か っ た	
全体 (n=10,000)	3.0	1.3	1.0	0.7	97.0	5.6	91.4	
男性全体 (n=5,020)	4.3	1.8	1.5	1.0	95.7	5.8	89.9	
男性20代 (n=796)	9.8	3.6	3.3	2.9	90.2	6.9	83.3	
男性30代 (n=966)	5.7	2.5	2.3	0.9	94.3	5.5	88.8	
男性40代 (n=1,189)	3.6	1.3	1.4	0.9	96.4	5.6	90.8	
男性50代 (n=956)	2.2	1.4	0.4	0.4	97.8	6.4	91.4	
男性60代 (n=1,113)	1.7	0.7	0.5	0.4	98.3	5.0	93.3	
女性全体 (n=4,980)	1.7	0.8	0.5	0.4	98.3	5.3	93.0	
女性20代 (n=756)	3.0	1.2	0.8	1.1	97.0	5.7	91.3	
女性30代 (n=937)	2.2	1.0	0.7	0.5	97.8	5.4	92.3	
女性40代 (n=1,162)	1.2	0.8	0.2	0.3	98.8	4.8	94.0	
女性50代 (n=956)	1.4	0.6	0.5	0.2	98.6	6.1	92.6	
女性60代 (n=1,169)	1.2	0.5	0.5	0.2	98.8	4.9	93.9	

9) 東京 2020 オリンピック・パラリンピックのボランティアへの応募理由

東京オリンピック・パラリンピックのボランティアへの応募者に対し、応募の理由をたずねた。最も多かったのは「スポーツが好きだから」の69.4%で、以下、「日本で開催されるから」(50.8%)、「選手のプレーをそばで見たいから」(39.5%)、「国際交流したいから」(30.6%)などの順となっている(図表19)。ボランティア活動実施希望者に対し、その理由を単一回答でたずねた2018年の調査では、最も多かったのは「日本で開催されるから」(オリンピック39.8%、パラリンピック39.5%)で、以下、「スポーツが好きだから」(オリンピック17.7%、パラリンピック15.9%)、「選手のプレーをそばで見たいから」(オリンピック16.2%、パラリンピック13.5%)の順であり、今回の調査は「スポーツが好きだから」の割合が相対的に高くなっている。

図表 19 東京 2020 オリンピック・パラリンピックのボランティアへの応募理由

あなたが東京オリンピック・パラリンピックのボランティアに応募した理由を選択してください。(複数選択可)



東京オリンピック・パラリンピックのボランティアへの応募理由を性別にみると、「スポーツが好きだから」は男性の割合が大きいですが、その他の理由では、女性の割合が男性を上回っている（図表 20）。特に、「語学を活かしたいから」「人とふれあいたいから」「人の役に立ちたいから」では、女性の割合が男性に比べて大きく、ボランティアへの応募の理由は、男女により異なる傾向があることがわかった。

**図表 20 東京 2020 オリンピック・パラリンピックのボランティアへの応募理由
(性・年代別)**

あなたが東京オリンピック・パラリンピックのボランティアに応募した理由を選択してください。(複数選択可)

	ス ポ ー ツ が 好 き だ か ら	見 た 手 の か ら 選 手 の プ レ ー を そ ば で	日 本 で 開 催 さ れ る か ら	開 催 さ れ る か ら の 近 隣 で	住 ま れ る か ら	地 域 に 貢 献 し た い か ら	国 際 交 流 し た い か ら	語 学 を 活 か し た い か ら	人 と ふ れ あ い た い か ら	人 の 役 に 立 ち た い か ら	そ の 他
全体 (n=301)	69.4	39.5	50.8	26.6	28.9	30.6	22.6	20.9	18.3	0.3	
男性全体 (n=216)	75.0	39.4	49.1	25.5	27.8	28.7	17.6	17.1	14.8	0.0	
男性20代 (n=78)	79.5	44.9	47.4	25.6	21.8	16.7	10.3	9.0	9.0	0.0	
男性30代 (n=55)	80.0	40.0	45.5	30.9	34.5	32.7	18.2	23.6	12.7	0.0	
男性40代 (n=43)	62.8	30.2	58.1	18.6	30.2	30.2	16.3	18.6	14.0	0.0	
男性50代 (n=21)	71.4	33.3	47.6	23.8	28.6	42.9	23.8	9.5	14.3	0.0	
男性60代 (n=19)	73.7	42.1	47.4	26.3	26.3	47.4	42.1	36.8	47.4	0.0	
女性全体 (n=85)	55.3	40.0	55.3	29.4	31.8	35.3	35.3	30.6	27.1	1.2	
女性20代 (n=23)	65.2	47.8	30.4	17.4	21.7	17.4	26.1	21.7	17.4	0.0	
女性30代 (n=21)	47.6	23.8	42.9	23.8	19.0	28.6	28.6	23.8	14.3	4.8	
女性40代 (n=14)	64.3	50.0	64.3	21.4	28.6	57.1	50.0	28.6	21.4	0.0	
女性50代 (n=13)	53.8	53.8	92.3	53.8	38.5	53.8	46.2	53.8	53.8	0.0	
女性60代 (n=14)	42.9	28.6	71.4	42.9	64.3	35.7	35.7	35.7	42.9	0.0	

10) ラグビーワールドカップと東京オリンピック・パラリンピックのボランティアに応募しなかった理由

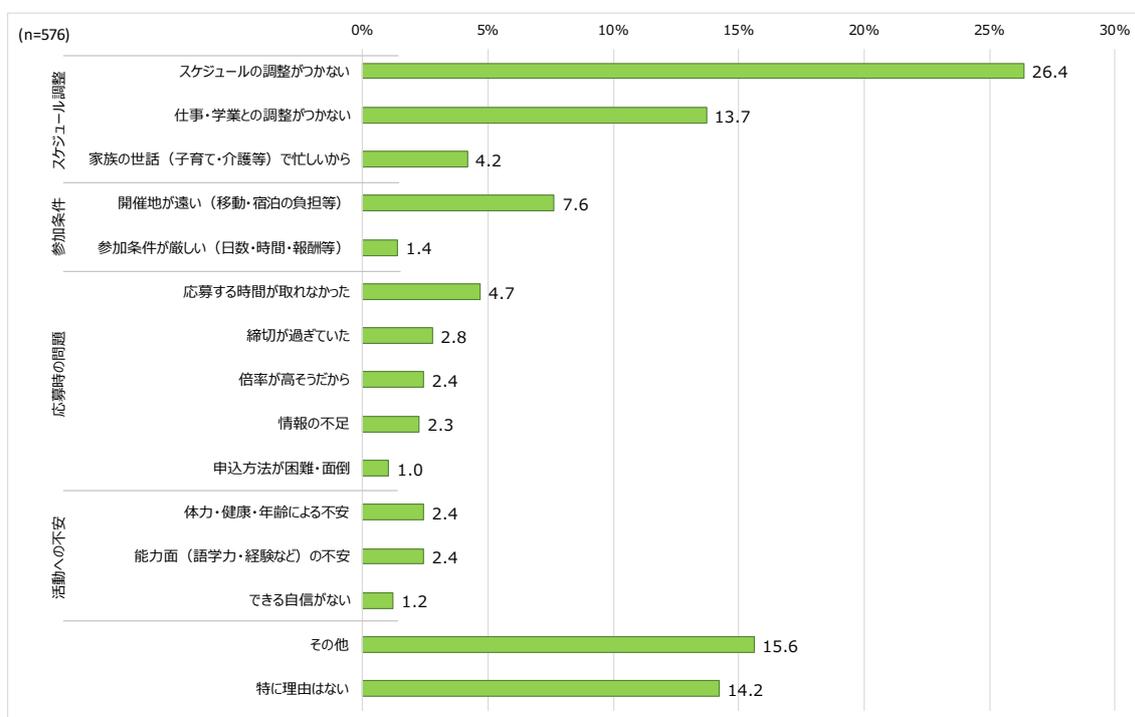
ラグビーワールドカップと東京オリンピック・パラリンピックのボランティアについて、「応募しなかった（応募を検討した）」と回答した者に、その理由を自由記述でたずねた。自由記述の内容をアフターコーディングし、結果を集計した。

(1) ラグビーワールドカップのボランティアに応募しなかった理由

ラグビーワールドカップのボランティアへの応募を検討したものの、応募しなかった理由は、①スケジュール調整、②参加条件、③応募時の問題、④活動への不安、⑤その他に分類された。このうち、全体の4割以上が理由に挙げた①スケジュール調整では、「スケジュールの調整がつかない」(26.4%)、「仕事・学業との調整がつかない」(13.7%)の割合が特に大きい(図表 21)。②参加条件では、「開催地が遠い(移動・宿泊の負担等)」(7.6%)、③応募時の問題では、「応募する時間がとれなかった」(4.7%)、④活動への不安では、「体力・健康・年齢による不安」(2.4%)と「能力面(語学力・経験など)の不安」(2.4%)がそれぞれ多くなっている。

**図表 21 ラグビーワールドカップ 2019 のボランティアに応募しなかった理由
(応募を検討した者)**

応募を検討したのに、あなたがラグビーワールドカップのボランティアに応募しなかった理由をおこたえください。



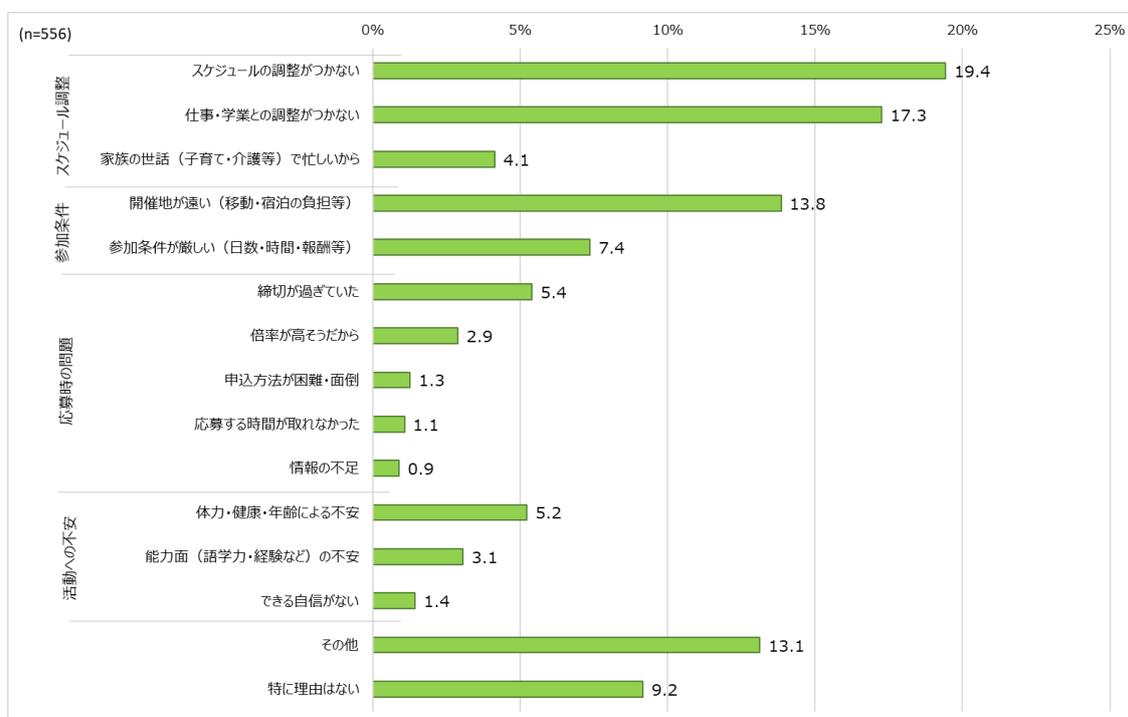
(2) 東京オリンピック・パラリンピックのボランティアに応募しなかった理由

東京オリンピック・パラリンピックのボランティアへの応募を検討したものの、応募しなかった理由も、ラグビーワールドカップで示した①スケジュール調整、②参加条件、③応募時の問題、④活動への不安、⑤その他に分類した。このうち最も多かった①スケジュール調整では、「スケジュールの調整がつかない」(19.4%)、「仕事・学業との調整がつかない」(17.3%)の割合が大きい(図表 22)。②参加条件では、「開催地が遠い(移動・宿泊の負担等)」(13.8%)、③応募時の問題では、「締切が過ぎていた」(5.4%)、④活動への不安では、「体力・健康・年齢による不安」(5.2%)がそれぞれ多くなっている。

ボランティアに応募しなかった理由について、2つの大会を比較すると、「開催地が遠い(移動・宿泊の負担等)」、「参加条件が厳しい(日数・時間・報酬等)」、「締切が過ぎていた」、「体力・健康・年齢による不安」などで、東京オリンピック・パラリンピックの方がラグビーワールドカップよりも割合が大きくなっている。開催都市が限られること、大会ボランティアの活動が10日間以上と長期にわたること、真夏の活動であることなどが、ボランティアの応募に影響していると推察される。

図表 22 東京 2020 オリンピック・パラリンピックのボランティアに応募しなかった理由（応募を検討した者）

応募を検討したのに、あなたが東京オリンピック・パラリンピックのボランティアに応募しなかった理由をおこたえください。

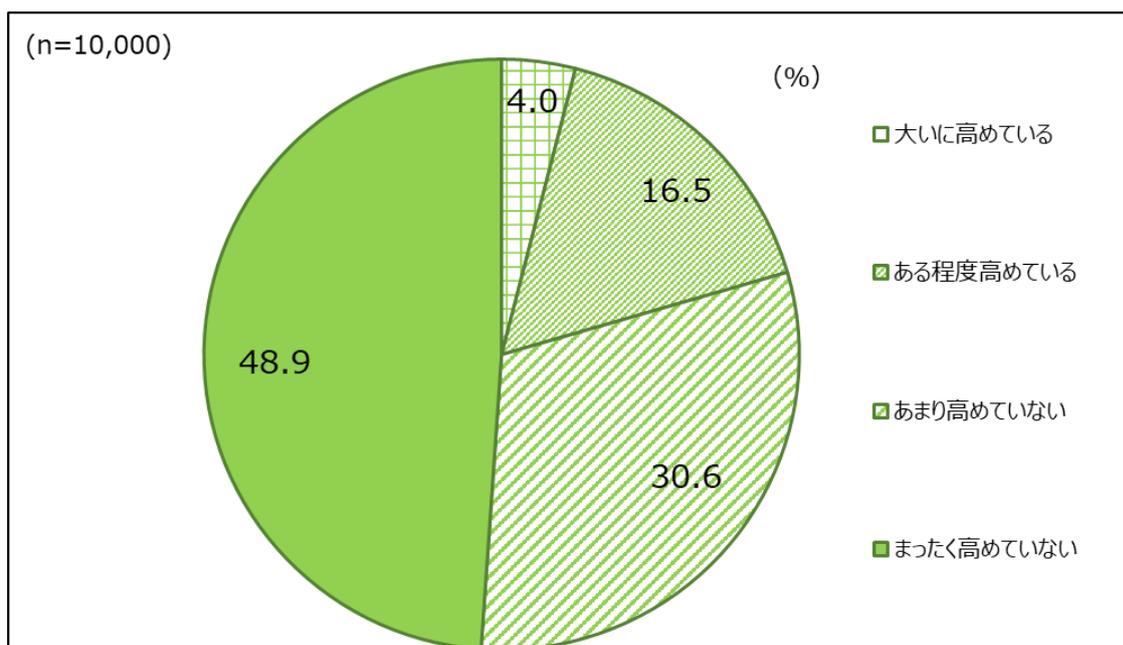


11) ラグビーワールドカップと東京オリンピック・パラリンピックのボランティアに関する報道の効果

ラグビーワールドカップ 2019 や東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会等のボランティアについての報道が、自身のボランティアへの活動意欲や関心を高めているかたずねた。「大いに高めている」が 4.0%、「ある程度高めている」が 16.5%で、約 2 割が高めていると回答した（図表 23）。一方で、「まったく高めていない」が 48.9%と半数近くいることもわかった。

図表 23 ラグビーワールドカップや東京オリンピック・パラリンピックのボランティアに関する報道の効果

ラグビーワールドカップや東京オリンピック・パラリンピック等のボランティアについて、多くの情報がメディアを通じて報道されています。これらの情報は、あなたのスポーツボランティアへの参加の意欲や関心を高めていますか。（1つ選択）



ラグビーワールドカップ 2019 や東京 2020 オリンピック・パラリンピック競技大会等のボランティアについての報道が、自身のボランティアへの参加意欲や関心を高めているかについて、性別にみると、「大いに高めている」と「ある程度高めている」は男性が女性より多くなっている（図表 24）。性・年代別にみると、「大いに高めている」は 20 代の男性と女性、「ある程度高めている」は 20 代、30 代の男性と女性、「あまり高めていない」は 60 代の男性と女性でそれぞれ多くなっている。

図表 24 ラグビーワールドカップや東京オリンピック・パラリンピックのボランティアに関する報道の効果

ラグビーワールドカップや東京オリンピック・パラリンピック等のボランティアについて、多くの情報がメディアを通じて報道されています。これらの情報は、あなたのスポーツボランティアへの参加の意欲や関心を高めていますか。（1つ選択）

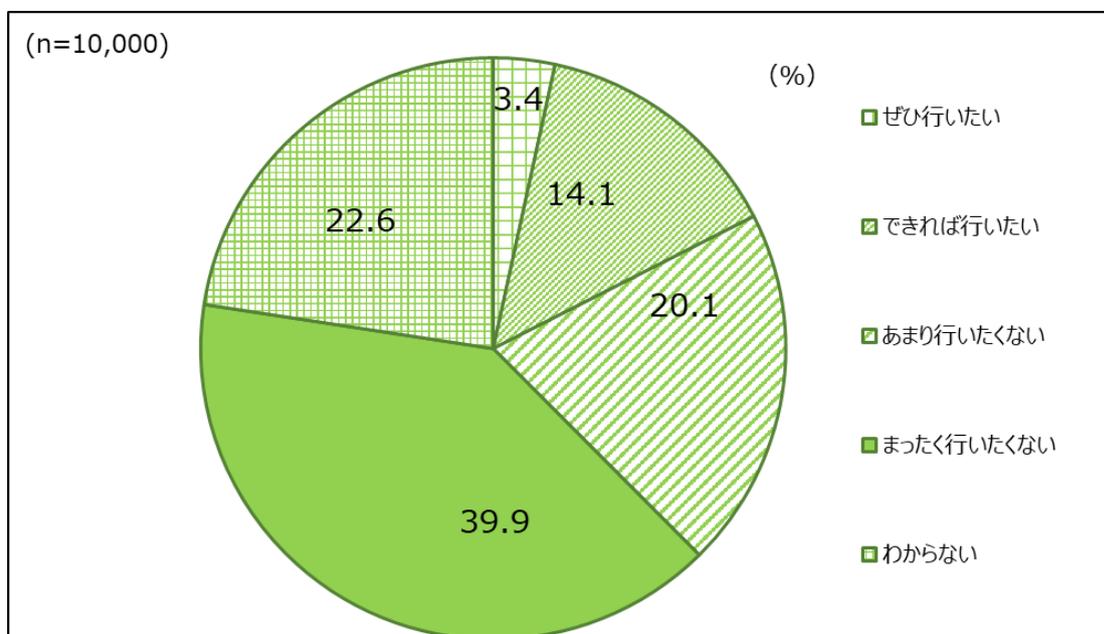
	(%)			
	大いに高めている	ある程度高めている	あまり高めていない	まったく高めていない
全体 (n=10,000)	4.0	16.5	30.6	48.9
男性全体 (n=5,020)	4.7	17.6	28.5	49.3
男性20代 (n=796)	7.8	20.4	24.5	47.4
男性30代 (n=966)	5.4	19.8	23.8	51.0
男性40代 (n=1,189)	4.5	14.5	28.1	52.9
男性50代 (n=956)	3.7	15.7	29.8	50.8
男性60代 (n=1,113)	2.8	18.8	34.6	43.8
女性全体 (n=4,980)	3.2	15.4	32.8	48.6
女性20代 (n=756)	5.0	16.0	27.8	51.2
女性30代 (n=937)	2.8	16.2	31.3	49.7
女性40代 (n=1,162)	3.2	14.8	30.1	51.9
女性50代 (n=956)	3.6	14.5	34.0	47.9
女性60代 (n=1,169)	2.2	15.6	39.1	43.1

12) スポーツボランティアの実施希望状況

今後、スポーツにかかわるボランティア活動を行いたいと思うかをたずねたところ、「ぜひ行いたい」と回答した者が3.4%、「できれば行いたい」が14.1%で、「行いたい」と回答した者は「ぜひ行いたい」と「できれば行いたい」合わせて17.5%、回答者のうちの6人に1人の割合であった(図表25)。一方、「あまり行いたくない」20.1%、「まったく行いたくない」39.9%で、両者を合わせると「行いたくない」が60.0%と6割を占めていた。「わからない」と回答した者は22.6%であった。

図表 25 スポーツボランティア実施希望状況

今後、あなたはスポーツにかかわるボランティア活動を行いたいと思いますか。(1つ選択)



性別にみると、男性のスポーツボランティア実施希望者は19.3%（「ぜひ行いたい」4.3%＋「できれば行いたい」15.0%）、女性では15.7%（「ぜひ行いたい」2.5%＋「できれば行いたい」13.2%）となっており、スポーツボランティア実施希望者は、女性よりも男性が多くなっている（図表26）。性・年代別にみると、スポーツボランティア実施希望者は、男性では20代が最も多く、「ぜひ行いたい」7.3%、「できれば行いたい」17.5%を合わせて24.8%と、20代の男性の4人に1人が実施を希望していることがわかる。次いで、60代の19.3%、30代の18.9%、40代、50代の17.5%の順であった。女性でも20代の希望が最も多く、「ぜひ行いたい」3.7%、「できれば行いたい」13.2%を合わせて16.9%と、20代女性の6人に1人は活動を希望していることがわかった。一方、「まったく行いたくない」と回答した者の割合が、男性の30代、40代、50代、60代で4割以上あったことも特記する。

図表 26 スポーツボランティア実施希望状況（性・年代別）

今後、あなたはスポーツにかかわるボランティア活動を行いたいと思いますか。（1つ選択）

	(%)				
	ぜひ行いたい	できれば行いたい	あまり行いたくない	まったく行いたくない	わからない
全体 (n=10,000)	3.4	14.1	20.1	39.9	22.6
男性全体 (n=5,020)	4.3	15.0	18.1	41.4	21.2
男性20代 (n=796)	7.3	17.5	15.2	37.1	23.0
男性30代 (n=966)	4.7	14.2	15.4	44.7	21.0
男性40代 (n=1,189)	4.5	13.0	16.2	43.4	23.0
男性50代 (n=956)	3.2	14.3	18.3	40.6	23.5
男性60代 (n=1,113)	2.6	16.7	24.4	40.1	16.2
女性全体 (n=4,980)	2.5	13.2	22.0	38.4	24.0
女性20代 (n=756)	3.7	13.2	21.0	37.7	24.3
女性30代 (n=937)	2.5	12.7	20.3	37.9	26.7
女性40代 (n=1,162)	2.2	13.3	18.6	39.5	26.3
女性50代 (n=956)	2.7	12.9	21.8	37.7	25.0
女性60代 (n=1,169)	1.9	13.5	27.5	38.7	18.4

13) 活動経験別にみるスポーツボランティアの実施希望状況

スポーツボランティアの実施希望を過去のスポーツボランティア活動の経験別にみると、「これまでに行ったことがある」ボランティア経験者が、「これまでに行ったことはない」未経験者よりも実施希望者が多いことがわかる（図表 27）。特に、「過去1年間に行った」スポーツボランティア実施者は、「ぜひ行いたい」と答えた者が 31.1%と最も多く、「できれば行いたい」と回答した 42.7%と合わせると 7 割以上の者が希望している。一方、「これまでに行ったことはない」と回答した未経験者の実施希望率は 10.4%（「ぜひ行いたい」 1.1%+「できれば行いたい」 9.3%）と低く、逆に「まったく行いたくない」と回答した者が 4 割以上を占めていることがわかった。

図表 27 スポーツボランティア実施希望状況（スポーツボランティア活動経験別）

今後、あなたはスポーツにかかわるボランティア活動を行いたいと思いますか。（1つ選択）

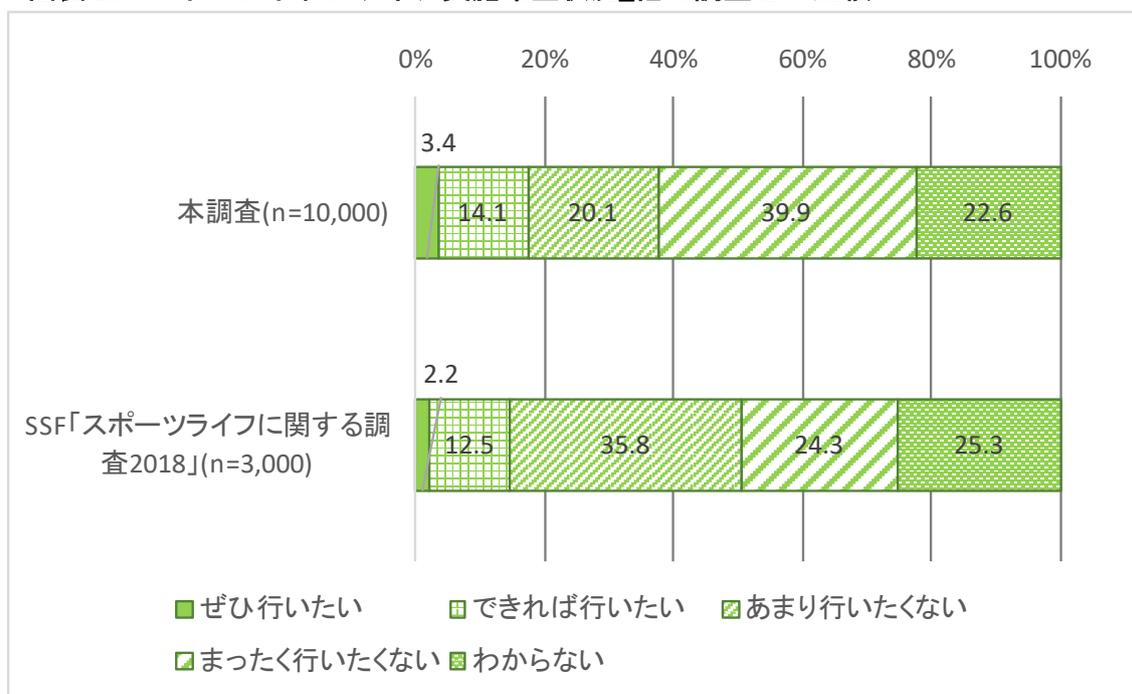
		(%)				
		ぜ ひ 行 い た い	で き れ ば 行 い た い	あ ま り 行 い た く な い	ま っ た く 行 い た く な い	わ か ら な い
全体 (n=10,000)		3.4	14.1	20.1	39.9	22.6
ス ポ ー ツ ボ ラ ン テ ィ ア 実 施 者	これまでに行ったことがある (n=1,521)	16.1	40.7	18.3	9.7	15.1
	過去1年間で行った (n=546)	31.1	42.7	9.0	6.4	10.8
	以前に行ったことがあるが、過去1 年間には行っていない (n=975)	7.7	39.6	23.6	11.6	17.5
	これまでに行ったことはない (n=8,479)	1.1	9.3	20.4	45.3	23.9

14) スポーツボランティアの実施希望状況_他の調査との比較

18歳以上を対象とした笹川スポーツ財団の全国調査「スポーツライフに関する調査」(2018)(以降、「SSF調査」)の結果と比較すると、スポーツボランティアの実施希望者は、本調査の17.5%（「ぜひ行いたい」3.4%+「できれば行いたい」14.1%）に対し、SSF調査では14.7%（「ぜひ行いたい」2.2%+「できれば行いたい」12.5%）であり、本調査が2.8ポイント高い結果となった（図表28）。

また、希望しない者は本調査の60.0%（「あまり行いたくない」20.1%+「まったく行いたくない」39.9%）に対し、SSF調査では60.1%（「あまり行いたくない」35.8%+「まったく行いたくない」24.3%）となっており、ほぼ同様の割合であった。

図表28 スポーツボランティア実施希望状況_他の調査との比較

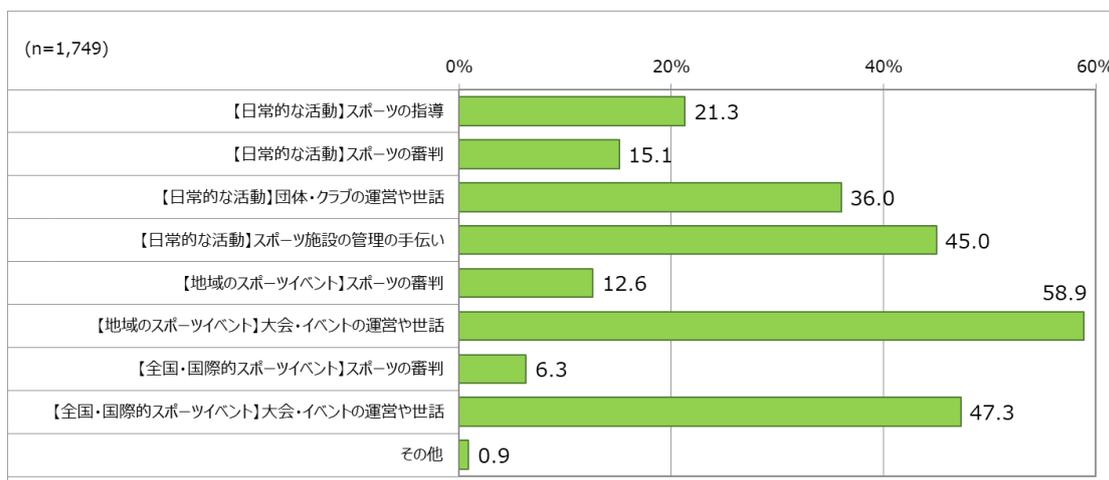


15) 今後希望するスポーツボランティアの活動内容

今後行いたいスポーツにかかわるボランティア活動の内容についてたずねたところ、「【地域のスポーツイベント】大会・イベントの運営や世話」が58.9%と最も多く、次いで「【全国・国際的スポーツイベント】大会・イベントの運営や世話」(47.3%)、「【日常的な活動】スポーツ施設の管理の手伝い」(45.0%)、「【日常的な活動】団体・クラブの運営や世話」(36.0%)の順であった(図表29)。地域のみならず、全国・国際的スポーツイベントへのボランティア実施希望者が多いことも、ラグビーワールドカップと東京2020大会に向けての期待の表れではないかと考えられる。

図表29 今後希望するスポーツボランティアの活動内容

今後行いたいスポーツにかかわるボランティア活動をお選びください。(複数選択可)



性別にみると、「【地域のスポーツイベント】大会・イベントの運営や世話」が男性 56.1%、女性 62.3%と男女ともに最も割合が高い。次いで男性では「【日常的な活動】スポーツ施設の管理の手伝い」(41.9%)、「【全国・国際的スポーツイベント】大会・イベントの運営や世話」(40.8%)、「【日常的な活動】団体・クラブの運営や世話」(37.2%)の順となる(図表 30)。女性では、次いで「【全国・国際的スポーツイベント】大会・イベントの運営や世話」(55.4%)、「【日常的な活動】スポーツ施設の管理の手伝い」(48.8%)、「【日常的な活動】団体・クラブの運営や世話」(34.6%)の順であった。なお、男女の上位 3 位までの活動内容については、女性の希望率が男性を上回っていた。

性・年代別にみると、最も実施希望者の多かった「【地域のスポーツイベント】大会・イベントの運営や世話」の割合は、若年層よりも男性の 50 代、60 代、女性の 50 代、60 代で高く、6 割を超えていた。また「【日常的な活動】スポーツの指導」では、男性の 20 代、30 代、40 代で 3 割を超えているものの、女性は 20 代、30 代でも 1 割程度と女性の希望者が少ない現状であることが確認できた。「【日常的な活動】スポーツの審判」も同様で、男性の 20 代、30 代は 3 割前後であるのに対し、女性ではそれぞれ 1 割台となっている。

図表 30 今後希望するスポーツボランティアの活動内容（性・年代別）

今後行いたいスポーツにかかわるボランティア活動をお選びください。(複数選択可)

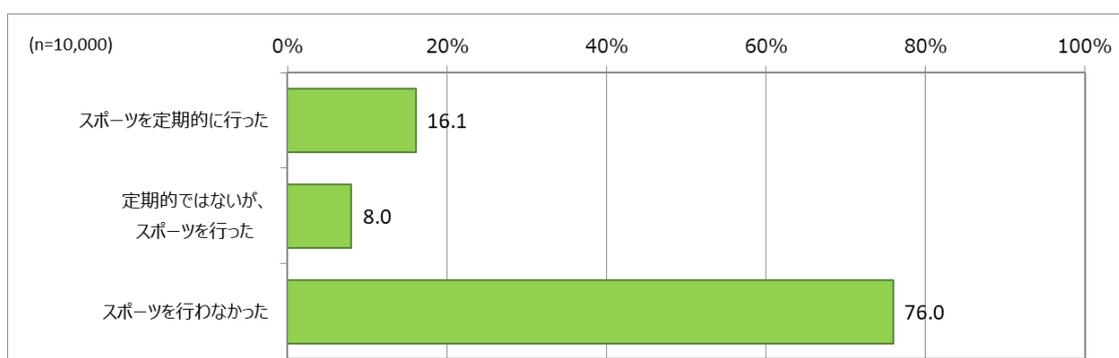
	「日常的な活動」スポーツ指導	「日常的な活動」審判	「日常的な活動」クラブの運営や世話	「日常的な活動」施設の管理の手伝い	「地域のスポーツイベント」審判	「地域のスポーツイベント」の運営や世話	「全国・国際的スポーツイベント」の審判	「全国・国際的スポーツイベント」の運営や世話	その他
全体 (n=1,749)	21.3	15.1	36.0	45.0	12.6	58.9	6.3	47.3	0.9
男性全体 (n=969)	31.4	21.6	37.2	41.9	18.5	56.1	8.5	40.8	0.5
男性20代 (n=197)	41.6	34.0	33.5	38.6	19.3	41.1	13.7	25.9	0.5
男性30代 (n=182)	39.0	29.1	36.8	37.4	24.2	49.5	9.3	38.5	0.0
男性40代 (n=207)	30.4	15.0	35.7	43.5	18.8	58.0	8.7	43.0	0.0
男性50代 (n=168)	26.8	18.5	42.3	44.0	17.3	61.3	8.9	52.4	2.4
男性60代 (n=215)	20.0	12.6	38.1	45.6	13.5	69.8	2.3	45.1	0.0
女性全体 (n=780)	8.7	7.1	34.6	48.8	5.3	62.3	3.7	55.4	1.3
女性20代 (n=128)	12.5	16.4	36.7	47.7	10.9	55.5	7.8	58.6	0.8
女性30代 (n=142)	12.7	12.0	41.5	54.9	7.7	60.6	7.0	51.4	1.4
女性40代 (n=181)	6.1	1.7	32.0	40.3	1.7	56.4	1.1	55.2	2.8
女性50代 (n=149)	8.1	4.7	38.9	55.7	4.7	67.1	2.0	65.8	0.7
女性60代 (n=180)	6.1	3.9	26.7	47.8	3.3	70.6	2.2	47.8	0.6

16) スポーツボランティアとスポーツ実施、スポーツ観戦との関係

「ささえるスポーツ」といわれるスポーツボランティアが、「するスポーツ」（スポーツの実施）や「みるスポーツ」（スポーツの観戦）とどのように関連しているかを確認するため、過去1年間のスポーツ実施状況とスポーツ観戦状況をたずねた。過去1年間に「スポーツを定期的に行った」者は16.1%、「定期的ではないが、スポーツを行った」者は8.0%、「スポーツを行わなかった」者は76.0%であった（図表31）。また、過去1年間に「直接会場で、定期的にスポーツを観戦した」者は8.0%「定期的ではないが、直接会場でスポーツを観戦した」者は10.5%、「直接スポーツの観戦をしなかった」者は81.5%であった（図表32）。

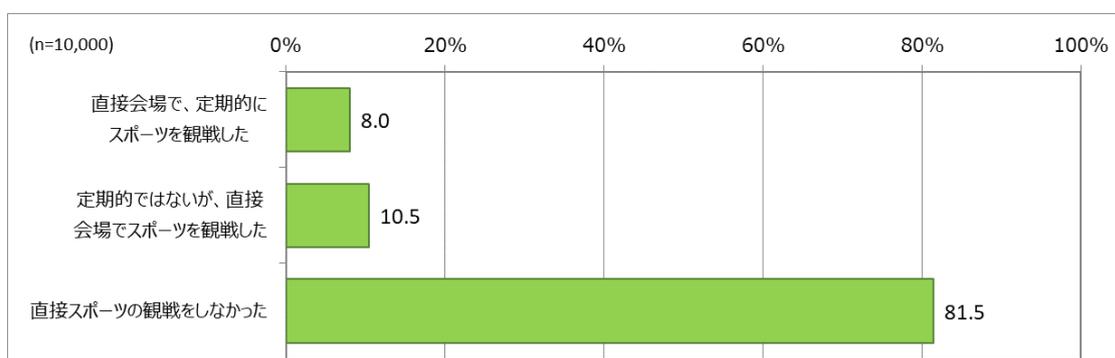
図表31 「するスポーツ」との関わり（スポーツ実施状況）

過去1年間のあなたとスポーツとの関わりについて、あてはまるものをお選びください。



図表32 「みるスポーツ」との関わり（スポーツ観戦状況）

過去1年間のあなたとスポーツとの関わりについて、あてはまるものをお選びください。



続いて、過去1年間にスポーツボランティアを「行った」と回答した者（スポーツボランティア実施者。全体の5.5%）に絞って、スポーツ実施状況別、スポーツ観戦状況別にみた。

スポーツ実施状況別にみると、「定期的にスポーツを行った」と回答した者のスポーツボランティア実施率は15.6%であった（図表33）。また、「定期的ではないが、スポーツを行った」者では10.3%、「スポーツを行わなかった」者では2.8%となっており、スポーツを実施する者ほどスポーツボランティア実施率が高くなっている。スポーツ観戦状況別にみると、「直接会場で、定期的にスポーツを観戦した」者のスポーツボランティア実施率は21.7%、「定期的ではないが、直接会場でスポーツを観戦した」者では9.5%、「直接スポーツの観戦をしなかった」者では3.3%で、スポーツを観戦する者ほどスポーツボランティア実施率が高かった。これらの結果から、スポーツボランティア実施者は、スポーツ実施者よりスポーツ観戦者に多いことがわかる。

また、スポーツ実施状況とスポーツ観戦状況を合わせて、スポーツボランティア実施率をみると、「定期的にスポーツを行った」者で、同時に「直接会場で定期的にスポーツを観戦した」者のスポーツボランティア実施率は30.5%（406サンプル中124サンプル）と最も高かった。一方、「スポーツを行わなかった」者で、同時に「直接スポーツの観戦をしなかった」者のスポーツボランティア実施率は2.6%と最も低かった。スポーツをする者、みる者ほど、スポーツボランティアする者が多いことが確認された。

図表 33 「するスポーツ」と「みるスポーツ」の関わり別にみるスポーツボランティア実施率

(%)

	直接会場で、定期的にスポーツを観戦した (n=801)	定期的ではないが、直接会場でスポーツを観戦した (n=1,050)	直接スポーツの観戦をしなかった (n=8,149)	小計
スポーツを定期的に行った (n=1,605)	30.5	17.7	8.2	15.6
定期的ではないが、スポーツを行った (n=800)	28.6	12.0	5.0	10.3
スポーツを行わなかった (n=7,595)	6.4	4.1	2.6	2.8
小計	21.7	9.5	3.3	5.5

17) 無自覚的スポーツボランティアの実施状況

過去1年間、スポーツボランティアを「以前に行ったことがあるが、過去1年間には行っていない」と回答した者（スポーツボランティア過去経験者）と、「これまでに行ったことはない」と回答した者（スポーツボランティア未経験者）（図表1参照）に対し、「スポーツイベントやスポーツ行事」での受付や案内、飲料や食事の準備など、また、「本人や子どもが所属するスポーツ団体やクラブ等」での練習や大会等での送迎、活動場所の準備や手配などの活動の有無についてたずねた。図表34,35 および図表36,37 に示すこれらの活動は、スポーツボランティアとみなして問題のない活動といえる。本項では、これらが無償または実費程度の報酬で行った者について、スポーツボランティアを「過去1年間に行っていない」、「これまでに行ったことはない」と回答しながらも、それをボランティアと認識せずに実施した「無自覚的スポーツボランティア」と定義する。

(1) スポーツボランティア過去経験者の無自覚的スポーツボランティア実施状況

スポーツボランティア過去経験者について、スポーツイベントやスポーツ行事での活動状況をみると、「会場の準備や撤収をしたことがある」が36.9%で最も多く、以下、「受付や案内をしたことがある」(31.6%)、「飲料や食事の準備をしたことがある」(26.1%)の順となっている(図表34)。また、本人や子どもが所属するスポーツ団体やクラブ等での活動状況では、「練習や大会等で、自分や自分の子ども以外のメンバーの送迎をしたことがある」が24.4%と最も多く、以下「夏祭り等の行事の準備や片付け、事務作業をしたことがある」(23.8%)、「練習や大会等で、自分や自分の子ども以外のために飲料や弁当の準備をしたことがある」(20.6%)が続く(図表35)。全体では、スポーツボランティア過去経験者の約7割がこれらのいずれかの活動を少なくともひとつは行っていた。

図表 34 スポーツボランティア過去経験者の無自覚的スポーツボランティア実施状況（スポーツイベントやスポーツ行事での活動）

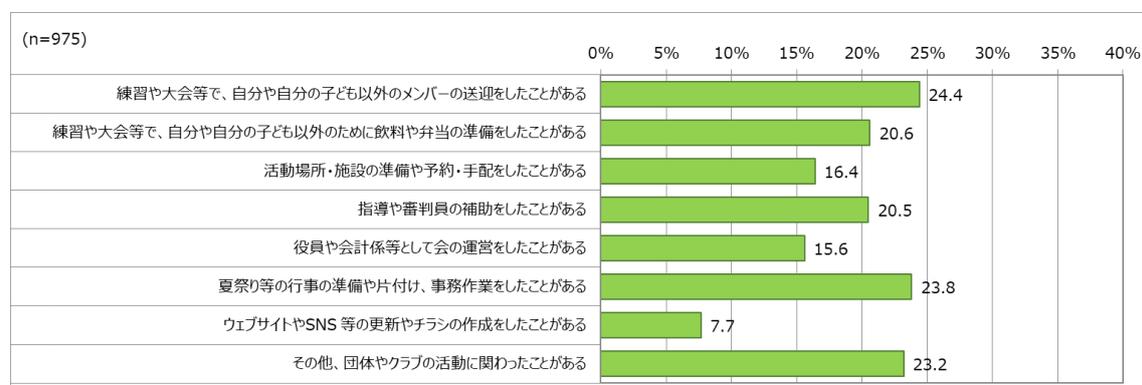
あなたは、過去1年間に、以下のような活動が無償または実費程度の報酬で行ったことがありますか。(複数選択可)



注) スポーツボランティア過去経験者：過去1年間にスポーツボランティアを行っていないが、それ以前に行ったことがあると回答した者

図表 35 スポーツボランティア過去経験者の無自覚的スポーツボランティア実施状況（自身や子どもが所属するスポーツ団体やクラブ等での活動）

あなたは、過去1年間に、以下のような活動が無償または実費程度の報酬で行ったことがありますか。(複数選択可)



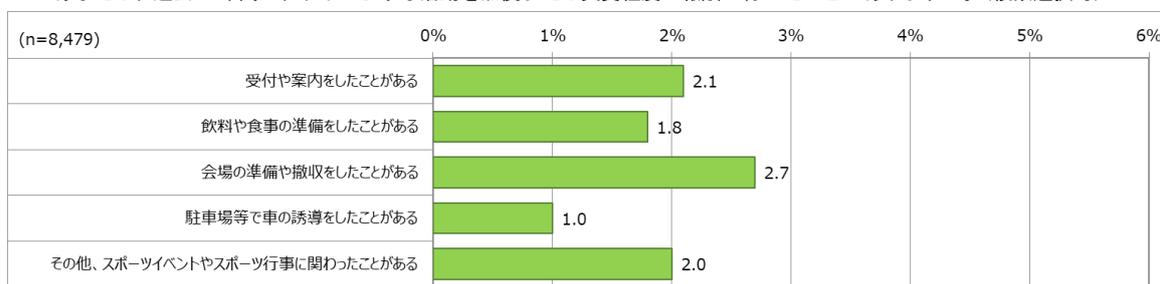
注) スポーツボランティア過去経験者：過去1年間にスポーツボランティアを行っていないが、それ以前に行ったことがあると回答した者

(2) スポーツボランティア未経験者の無自覚的スポーツボランティア実施状況

スポーツボランティア未経験者について、スポーツイベントやスポーツ行事での活動状況をみると、「会場の準備や撤収をしたことがある」が2.7%で最も多く、以下、「受付や案内をしたことがある」(2.1%)、「飲料や食事の準備をしたことがある」(1.8%)の順となっている(図表36)。また、本人や子どもが所属するスポーツ団体やクラブ等での活動状況では、「練習や大会等で、自分や自分の子ども以外のメンバーの送迎をしたことがある」が5.7%と最も多く、以下「夏祭り等の行事の準備や片付け、事務作業をしたことがある」(5.2%)、「練習や大会等で、自分や自分の子ども以外のために飲料や弁当の準備をしたことがある」(4.6%)が続く(図表37)。スポーツボランティア未経験者では、スポーツイベントやスポーツ行事での活動、または本人や子どもが所属するスポーツ団体やクラブ等での活動を少なくともひとつ以上行っているのは13.6%であった。図表34~37をみると、スポーツボランティア未経験者の無自覚的スポーツボランティアの実施率は、スポーツボランティア経験者のそれを大きく下回ることがわかる。

図表 36 スポーツボランティア未経験者の無自覚的スポーツボランティア実施状況（スポーツイベントやスポーツ行事での活動）

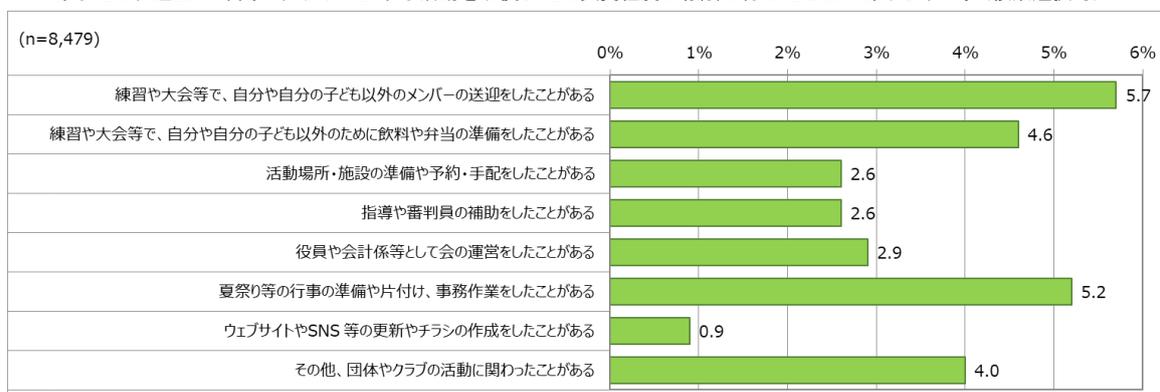
あなたは、過去1年間に、以下のような活動を無償または実費程度の報酬で行ったことがありますか。(複数選択可)



注) スポーツボランティア未経験者：これまでにスポーツボランティアを行ったことがないと回答した者

図表 37 スポーツボランティア未経験者の無自覚的スポーツボランティア実施状況（自身や子どもが所属するスポーツ団体やクラブ等での活動）

あなたは、過去1年間に、以下のような活動を無償または実費程度の報酬で行ったことがありますか。(複数選択可)



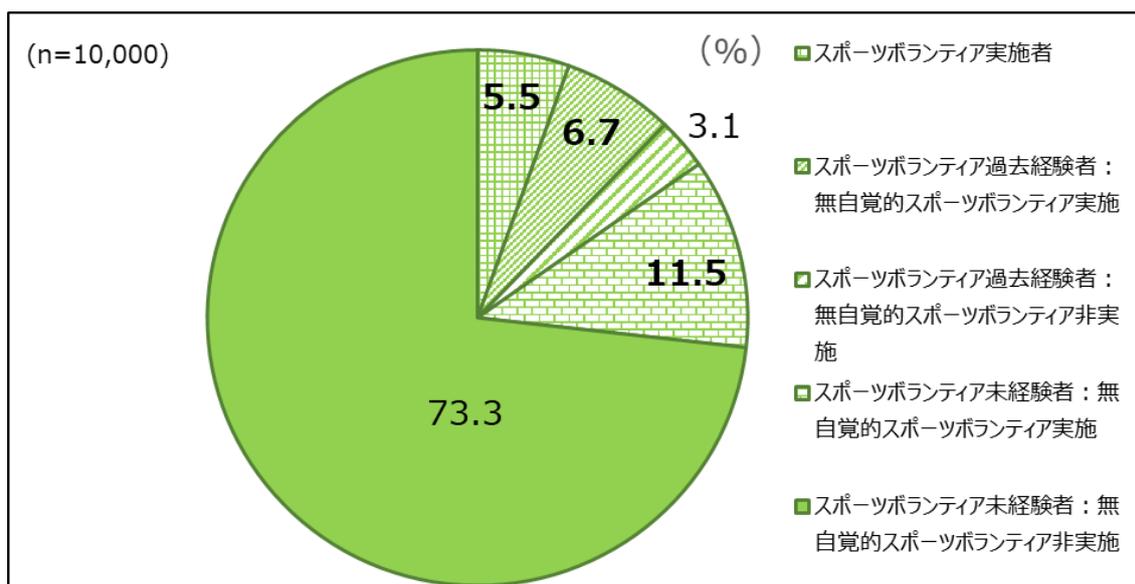
注) スポーツボランティア未経験者：これまでにスポーツボランティアを行ったことがないと回答した者

18) 無自覚的ボランティアを含むスポーツボランティアの実施状況

スポーツボランティアを「以前に行ったことがあるが、過去1年間には行ってない」者（スポーツボランティア過去経験者）と「これまでに行ったことはない」者（スポーツボランティア未経験者）を、無自覚的スポーツボランティア実施の有無別にそれぞれ2つに分け、スポーツボランティアの実施状況をより詳細にみた（図表38）。

無自覚的にスポーツボランティアを実施していたスポーツボランティア過去経験者は全体の6.7%、ボランティア未経験者では11.5%であった。これら無自覚ボランティアとスポーツボランティア実施者（5.5%）を合わせると、過去1年間に何らかのスポーツボランティアを実施した者は23.7%となる。無自覚的スポーツボランティア実施者の存在は、多くの人が、スポーツをささえる様々な活動を、スポーツボランティアとしてイメージできていないことを示唆している。

図表38 無自覚的ボランティアを含む過去1年間のスポーツボランティア実施状況



3. まとめと考察

■ 主な調査結果

わが国では、2019年から2021年にかけて、以下の大規模国際スポーツイベントが3年連続で開催される。

- 1) 2019年 ラグビーワールドカップ
- 2) 2020年 東京オリンピック・パラリンピック
- 3) 2021年 ワールドマスターズゲームズ

この3大会の運営、競技会場周辺での観客への道案内・観光案内、各国代表チームの事前合宿のサポートなどで、わが国では、全国各地でこれまでにない規模のボランティアが活動することが見込まれている。本調査は、これらのイベントがわが国のスポーツボランティア実施率やニーズ等に与える影響を把握するため、ラグビーワールドカップの前年（2018年）からワールドマスターズゲームズの翌年（2022年）までの5年間継続して実施する計画であり、今回がその2年目となる。

本調査では、過去1年間のスポーツボランティア実施率に加えて、それ以前のスポーツボランティア実施経験、さらにはスポーツ以外のボランティアの実施状況や過去の実施経験を明らかにしている。また、スポーツボランティアを「行っていない／行ったことがない」と回答した者に対して、「スポーツイベントやスポーツ行事」と「本人や子どもが所属するスポーツ団体やクラブ等」での具体的な活動の有無をたずね、無自覚的にスポーツボランティア活動を行っている者を明らかにしていることも特長の一つである。

主な調査結果は以下のとおりである。

1. スポーツボランティア実施者の多くは、スポーツ以外のボランティアも実施

過去1年間にスポーツボランティアを実施した者は全体の5.5%で、前回の調査（5.3%）とほぼ同様の結果であった（図表1）。スポーツボランティア実施者を、スポーツ以外のボランティアの実施有無別にみると、スポーツボランティアのみを行っている者は約1/4であり、多くはスポーツ以外のボランティア活動も行っていた（図表7）。過去1年間の実施者を含めたこれまでのスポーツボランティア実施経験者でも、8割以上が「スポーツ」と「スポーツ以外」のボランティア両方を実施、または経験していることがわかった（図表9）。自治会やPTA、青少年育成団体のイベントやそのプログラムの一部としてスポーツは広く行われており、他の分野のボランティア活動とスポーツとのこうした親和性が、スポーツボランティアとスポーツ以外のボランティアの「掛け持ち」の多さに影響していると考えられる。

2. スポーツの指導、審判は男性が、地域スポーツイベントの運営は女性が多い

スポーツボランティアの活動内容を性別にみると、

「【日常的な活動】スポーツの指導」の実施率：男性 39.0%、女性 12.4%

「【日常的な活動】スポーツの審判」の実施率：男性 31.0%、女性 13.7%

「【地域のスポーツイベント】スポーツの審判」の実施率：男性 22.8%、女性 10.1%

であり、スポーツの指導や審判の活動において男性が女性を大きく上回っており（図表 4）、スポーツボランティア実施率の男女差（男性 7.6%、女性 3.3%）は、これらの活動に起因している。スポーツ少年団の団員数や中体連の加盟生徒数をみると、男子の加入率が女子よりも大きいことから、青少年期の競技経験者の数が、ボランティア指導者、ボランティア審判の実施率の男女差の一因と考えられる。

一方、男女ともに最も実施率が高い「【地域のスポーツイベント】大会・イベントの運営や世話」では、女性（52.3%）が男性（45.0%）を上回っている。競技経験の有無に関わらずできるイベントの手伝いに、子どもの保護者の立場に関わる女性が多いと推察される。

3. スポーツボランティア活動の経緯は、自発的参加が約 2 割

スポーツボランティア活動の経緯について、「自ら応募・立候補して自主的に行った」は 18.2%であり、残りの約 8 割は、何らかの組織、グループや知人などからの依頼がきっかけとなっている（図表 11）。スポーツボランティア実施者と過去経験者に分けてみると、「自ら応募・立候補して自主的に行った」の割合は、スポーツボランティア実施者が 27.1%と過去経験者の 13.2%と比べて大きい。地域では、スポーツ少年団に代表される小学生のクラブやチームの指導者、競技大会の運営にあたる役員など、自らも継続的にボランティアで活動している人（スポーツボランティア実施者）が、必要な人材を確保するために、子どもの保護者や知人・友人に活動の「手伝い」を頼むケースがよくある。ボランティア過去経験者には、こうして「頼まれて」限られた回数、不定期的に活動を手伝った人が一定数含まれると推察される。

4. スポーツボランティア実施率は、定期的なスポーツ実施者より定期的観戦者が高い

「直接会場で、定期的にスポーツを観戦した」者のスポーツボランティア実施率は 21.7%であり、全体（5.5%）の 4 倍となっている。これに対し、「スポーツを定期的に行った」者の実施率は 15.6%であり、スポーツボランティアは、スポーツ実施よりスポーツ観戦との関連性が強い（図表 33）。一方で、スポーツを行わず、直接スポーツ観戦もしなかった者のスポーツボランティア実施率は 2.6%と全体の半分程度と少なかったが、スポーツを「する」「みる」と関わりが無くても、ささえる活動（ボランティア）を行う者が一定数存在することは注目に値する。笹川スポーツ財団「スポーツライフに関する調査」（2012）によると、過去 1 年間にスポーツを行わず、さらに観戦もしなかった者のスポーツボランティア実施率は 2.3%であり、今回の調査結果とほぼ同様の値となっている。

5. ラグビーワールドカップと東京オリンピック・パラリンピックのボランティア：潜在的実施希望者の存在

ラグビーワールドカップと東京オリンピック・パラリンピックのボランティアに「応募した」者は、それぞれ 2.4%と 3.0%であった（図表 13、17）。加えて、「応募しなかった」が、「応募を検討した」者がそれぞれ 5.8%、5.6%と、「応募した」者の 2 倍前後いたことは、大規模スポーツイベントのボランティアの潜在的なニーズの高さを示している。これらの「応募予備軍」が応募しなかった理由が多かったのは、2 大会とも、「スケジュールの調整がつかない」「仕事・学業との調整がつかない」「開催地が遠い（移動・宿泊の負担等）」であった（図表 21、22）。大規模スポーツイベントでは、開催準備の都合上、活動の 1 年以上前からボランティアを募集するケースが一般的である。また、事前研修を複数回行うなど、大会本番前からスケジュールの確保を求められることも少なくない。調査結果は、スポーツボランティアのために、先の予定を空けることが確約できないために、参加をあきらめている者が一定数いることを裏付けている。加えて、「体力・健康・年齢による不安」「能力面（語学力・経験など）の不安」「申込方法が困難・面倒」などの理由で応募しなかった者がいることは、募集時のより丁寧な説明やメディアを活用した効果的なプロモーションなどによっては、応募者がさらに増えていた可能性も示唆している。

■ ボランティアを大規模国際大会のレガシーに

ラグビーワールドカップ、東京オリンピック・パラリンピック、そしてワールドマスターズゲームズの各組織委員会と関係者は、これらのイベントを契機に、開催地や日本社会にさまざまな「レガシー」を遺すことを目指している。パラリンピックの開催による施設のバリアフリー化や障害理解の促進は分かりやすい例であるが、大会に関わったボランティアが、その後スポーツや他の分野でボランティアとして継続的に活躍することも、大会の重要なレガシーと考えられている。東京都と東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会が共同でまとめた「東京 2020 大会に向けたボランティア戦略」（2016）では、ボランティア文化の定着と、共助社会の実現を大会レガシーに位置づけている。

人口減少と高齢化が進むわが国では、地域の社会活動を支える人材の高齢化と新たな担い手不足が課題となりつつある。スポーツも例外ではない。公共施設や学校開放施設で活動する小学生のチームのボランティア指導者の世代交代が進まない、地域の競技大会の運営のために、新たに審判員の資格を取る人がいない、といった現場は全国にみられる。将来にわたる少子化で、競技者が減り続ける状況では、限られた競技者 OB、OG の献身に依存した現在のような地域スポーツの普及・育成モデルは、多くの競技で維持できないと考えられる。これまで競技に関わりなかった人の中から、身近な地域でスポーツを支える人が出てくることが望まれている。

こうした社会的な課題を解決する契機として、2019 年からの 3 つの大規模スポーツイベ

ントを活用したい。これだけの規模の国際イベントが、全国で、しかも連続して開催されるのは過去に例がない。東京オリンピック・パラリンピックの開催都市は東京だが、野球・ソフトボール、サッカー、自転車等の会場や各国の事前キャンプ地など、関係する地域は全国に広がっている。

大会組織委員会や開催地自治体が、ボランティアに対する理解を深めていることは、ボランティアをレガシーとして遺すための追い風といえる。ラグビーワールドカップでは、公式ボランティアプログラム「NO-SIDE」の中で、ボランティアがイベントの成功に不可欠な「大会の顔」としての役割を担うことを伝え、オリエンテーションや各種研修会などを通じて、コミュニケーションスキルやモチベーションの向上に積極的に取り組んでいる。また、2019年2月に始まった東京オリンピック・パラリンピックのボランティアのオリエンテーションは、応募者と組織委員会スタッフ、そして応募者同士の交流を重視したプログラムとなっている。どちらの大会でも、組織委員会のボランティア担当者は、ボランティアを無償の労働力として軽視することなく、彼らにいかに関心のやりのや参加満足を感じてもらうかに心を砕いている。

ラグビーワールドカップ、東京オリンピック・パラリンピック、そしてワールドマスターズゲームズの開催に関わる自治体と競技団体には、大会で高まるボランティアの機運を、その後のスポーツ振興やまちづくりにつなげる取組みに速やかに着手することに期待したい。求められる具体的な取組みは、3大会でボランティアへの関心を高めた人や、活動の意義ややりがいに目覚めた人に対し、多くの魅力的な活動機会を提供し続けることである。これまで関係者の動員で実施してきた地域のスポーツイベントや文化イベント、祭りの運営体制を見直し、自発的なボランティアが担う役割を創出する。自発的なボランティアの活躍を通じて、イベントの質の向上や、運営スタッフの負担軽減や満足度の向上を目指すのである。

ボランティアを活かす上で大切なのは、主催者のスタッフ全員が、

- ・ボランティアを労働力ではなく、共にイベントを作り上げる仲間と考える
- ・ボランティアの貢献を正しく評価し、感謝の意を表する

こうした意識を共有することである。これは、ボランティアに対する丁寧な事前説明やイベント当日の気配り・目配りにつながる。そして、一人ひとり異なるボランティアの経験や能力を見極め、適材適所に配置できるようになれば、ボランティアの力が最大限発揮され、イベントがより良いものとなるだろう。

参考事例として、東京マラソンとJリーグ・川崎フロンターレが挙げられる。東京マラソンでは、38,000人のランナーを約12,000人のボランティアが支えている。ボランティアの参加満足度が高いため、リピーターも多く、毎年募集人数を上回る応募がある。東京マラソン財団では、公式ボランティアクラブ「VOLUNTAINER（ボランティア：ボランティアとエンターテイナーの合成語）」を設立し、東京マラソンによるボランティアの盛り上がりや、日本のスポーツボランティア文化の醸成につなげるべく、メンバーのスキルアップや他

のスポーツイベントでのボランティア活動機会の提供などを行っている。

Jリーグ・川崎フロンターレのボランティアは、ホームゲームやファン感謝デーの運営にとどまらず、クラブの地域イベントでも幅広く活動している。2018シーズンの登録者は360人。ホームゲームでは1試合平均87人のボランティアが活動したほか、地域イベントでは、133回の活動にのべ581人が参加した。活動回数が多いボランティアには、シーズン終了後、監督・選手がボランティアに感謝する場である「ボランティア納会」への参加資格が与えられ、ボランティア活動の励みになっている。

東京マラソンと川崎フロンターレはいずれも活動希望者が多く、すべての人がボランティアに参加できないという稀有な例である。ボランティアの力を借りる主催者が、その価値を正しく理解し、ボランティアとのコミュニケーションに必要な時間とコストをかけているという点は、ラグビーワールドカップと東京オリンピック・パラリンピックも同様である。こうしたボランティアマネジメントが、その後のスポーツイベントのスタンダードになり、多くのボランティアが「来年もぜひ参加したい」と思える満足度の高い活動が増えていくことも、3大会のレガシーといえるのではないだろうか。

大会レガシーとしてのボランティアは、大会で活動するボランティアにとどまらない。

- 1) ラグビーワールドカップのボランティア応募者 38,000 人のうち、落選した 25,000 人
- 2) 東京オリンピック・パラリンピックの大会ボランティア応募者 20 万人のうち、落選する 12 万人
- 3) オリンピック・パラリンピック開催地の都市ボランティアに応募し、落選する／した人
- 4) その他、これらの大会のボランティアへの応募を真剣に検討しながら、何らかの事情で応募できなかった人

これらの人々も含めて考えることが重要である。大会で活動したボランティアと1)～4)を合わせると、その数は30万人近い規模となるはずである。これだけのボランティアを掘り起こす機会は二度と訪れないであろう。

企業のボランティアに対する理解の深まりも、大会のボランティアレガシーに位置づけたい。東京オリンピック・パラリンピックでは、大会のスポンサーを含む多くの企業からのボランティア参加が見込まれる。大会でのボランティア経験が、社員の成長やQOLの向上につながることを認識すれば、社員のボランティア活動に理解のある企業が増えるだろう。実際に大会でボランティアを経験し、その意義ややりがい目覚めた人が、それを同僚や後輩達に伝えることで企業内での理解が広がり、ボランティア休暇制度などの環境整備が進む可能性がある。大会組織委員会には、ボランティアの研修、配置、そして当日の運営において、ボランティアの活動の充実に向けて継続的に取り組むことを期待したい。

4. 参考文献

- 金子史弥 (2017) ロンドン 2012 オリンピック・パラリンピックにおけるボランティア政策. 現代スポーツ評論, 37 : 101-112. 創文企画
- 桜井政成 (2007) ボランティアマネジメント—自発的行為の組織化戦略—. ミネルヴァ書房
- 笹川スポーツ財団 (2017) スポーツ白書 2017—スポーツによるソーシャルイノベーション—.
- 笹川スポーツ財団 (2012) スポーツライフ・データ 2012.
- 笹川スポーツ財団 (2014) スポーツライフ・データ 2014.
- 笹川スポーツ財団 (2016) スポーツライフ・データ 2016.
- 笹川スポーツ財団 (2018) スポーツライフ・データ 2018.
- 総務省統計局 (2018) 平成 28 年 社会生活基本調査報告. 第 2 巻 全国・地域 生活行動編. 日本統計協会
- 東京都生活文化局 (2018) 都民等のボランティア活動等に関する実態調査.
- 東京都、東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会 (2016) 東京 2020 大会に向けたボランティア戦略.
- 早瀬昇、筒井のり子 (2015) ボランティアコーディネーションカー市民の社会参加を支えるチカラ ボランティアコーディネーション力検定公式テキスト—. 日本ボランティアコーディネーター協会
- 二宮雅也 (2017) スポーツボランティアとは? —スポーツの「裏方」を楽しむ—. 現代スポーツ評論, 37 : 44-55. 創文企画
- 日本スポーツ協会、日本スポーツ少年団 (2018) 平成 29 年度スポーツ少年団育成報告書.
- 日本スポーツボランティア学会 (2008) スポーツボランティア・ハンドブック. 明和出版
- 文部科学省 (2015) 「スポーツにおけるボランティア活動活性化のための調査研究 (スポーツにおけるボランティア活動を実施する個人に関する調査研究)」報告書. 笹川スポーツ財団
- 文部科学省 (2015) 「スポーツにおけるボランティア活動活性化のための調査研究 (スポーツにおけるボランティア活動を担う組織・団体活性化のための実践研究)」報告書. 笹川スポーツ財団
- 山口泰雄 (2004) スポーツ・ボランティアへの招待—新しいスポーツ文化の可能性—. 世界思想社

スポーツボランティアに関する調査 2019 報告書

2019年7月発行

発行者 公益財団法人 笹川スポーツ財団

〒107-0052 東京都港区赤坂 1-2-2 日本財団ビル 3F

TEL 03-6229-5300 FAX 03-6229-5340

E-mail info@ssf.or.jp URL <http://www.ssf.or.jp/>

無断転載、複製および転載を禁止します。引用の際は本書が出典であることを明記してください。

本事業は、ボートレースの交付金による日本財団の助成金を受けて実施しました。